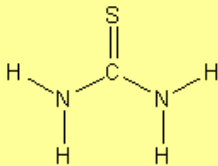


項目名 (同一の試験項目について複数の試験がある場合、当該項目行をコピー追加してください。)	データ入力欄
	黄色＝必須項目
	青＝任意項目
	紫＝一部の物質で必須項目

1. 一般情報

1.01 物質情報

CAS番号	62-56-6
物質名(日本語名)	チオ尿素
物質名(英名)	thiourea
別名等	チオウレア
国内適用法令の番号	化審法 2-1733、PRTR法 1-181
国内適用法令物質名	チオ尿素
OECD/HPV名称	該当せず
分子式	CH4N2S
構造式	
備考	

1.02 安全性情報収集計画書／報告書作成者に関する情報

機関名	チオ尿素コンソーシアム
代表者名	
所在地及び連絡先	
担当者氏名	
担当者連絡先(住所)	
担当者連絡先(電話番号)	
担当者連絡先(メールアドレス)	
報告書作成日	
備考	

1.03 カテゴリー評価

カテゴリー評価の正当性	該当せず
-------------	------

1.1 一般的な物質情報

物質のタイプ	有機化合物
物質の色・におい・形状等の情報	白色固体
物理的状態(20℃、1013hPa)	固体
純度(重量／重量%)	99%
出典	MSDS
備考	

1.2 不純物

1.3 添加物

1.4 別名

物質名-1	チオカルバミド
物質名-2	該当せず
出典	
備考	

1.5 製造・輸入量

製造・輸入量	1000トン(取扱量オーダー)
報告年	2001年
出典	既存化学物質安全性情報収集・発信プログラムスポンサーマニュアル(詳細版)(平成17年7月厚生労働省、経済産業省、環境省)(参考7)国際的取組のない優先情報収集対象物質リスト
備考	

1.6 用途情報

主な用途情報	中間体用途
工業的用途	化学工業:合成
用途分類	33中間体／290有機中間体:ウレタン樹脂原料、合成原料、配合剤
出典	化学物質の初期リスク評価書
備考	

1.7 環境および人への暴露情報

暴露に関する情報	環境中濃度(環境中濃度の測定結果):①大気中の濃度;調査下範囲において、チオ尿素の大気中濃度に関する測定結果は入手できなかった。②公共用水域中の濃度;環境庁ではチオ尿素について1977年度の化学物質環境調査において、一般環境中における残留状況の把握を目的として水質と底質の濃度を測定しているが、いずれも不検出であった(環境庁,1978)。水質(1977年度):検出数/測定数0/6、検出限界1.1~400μ g/L 底質(1977年度):検出数/測定数0/6、検出限界0.055~1μ g/L ③水道水中の濃度;調査下範囲において、チオ尿素の水道水中濃度に関する測定結果は入手できなかった。④食物中の濃度;調査した範囲において、チオ尿素の食物中濃度に関する測定結果は入手できなかった。
出典	化学物質の初期リスク評価書
備考	

暴露に関する情報	環境中濃度(環境中濃度の推定):①メッシュ毎の排出量の推計;濃度推定に必要な大気、公共用水域及び土壌の各環境媒体のメッシュ毎の排出量を、化学物質排出把握管理促進法に基づく「平成13年度届出排出量及び移動量並びに届出外排出量の集計結果」(経済産業省、環境省、2003a)(以下、「2001年度PRTRデータ」という。)をもとに、推定する。届出排出量については、事業所毎の排出量、事業所の所在地の情報をもとに、メッシュ毎に割り振った。届出外排出量については、対象業種届出外事業者からの排出量が推計されており、その排出量を対象業種の全事業所数から届出事業所数を引いた事業所数をもとにメッシュ毎に割り振るとともに、環境媒体別の排出量を届出排出量の環境媒体別排出割合を用いて推定し、チオ尿素の全国における環境媒体別排出量を表に整理した(製品評価技術基盤機構、2004)。 チオ尿素の全国における環境媒体別排出量 (トン/年) 届出 :大気0.5未満、公共用水域115、土壌 0 対象業種届出外1):大気0.5未満、公共用水域 1、土壌 0 合計 :大気0.5未満、公共用水域116、土壌 0 1)大気、水域、土壌の排出量は、届出排出量の排出割合と同じと仮定し、推定した。
----------	---

暴露に関する情報	②大気中濃度の推定:①の方法で推定したメッシュ毎の大気への排出量、物理化学的性状及び2001年の気象データをもとに、IST-ADMER Ver.1.0(産業技術総合研究所,2003;東野ら,2003)を用いて、5kmメッシュ毎の年間平均の大気中濃度を推定する。推定する大気濃度は、全国各地域(北海道、東北、北陸、関東、中部、東海、近畿、中国、四国、九州、沖縄)のうち、大気への排出密度(2001年度PRTRデータから求めた地域別の大気への排出量/当該地域面積)が最も高い地域の濃度とする。チオ尿素の地域別の大気への排出量及びそのその排出密度を下表に示す。チオ尿素は、中部地域における大気への排出密度が最も大きいため、この地域における大気中濃度を推定した。推定の結果、中部地域における大気中濃度の年間平均の最大値は、 $1.7 \times 10^{-5} \mu \text{g}/\text{m}^3$ であった。チオ尿素の地域別大気への排出量及び排出密度		
	地域名	大気への排出量合計	大気への排出密度
		(トン/年)	(トン/ km^2 /年)
	北海道	0.000000183	2.2×10^{-12}
	東北	0.000000409	6.4×10^{-12}
	北陸	0.000000409	2.3×10^{-11}
	関東	0.00000208	6.49×10^{-11}
	中部	0.001	3.2×10^{-8}
	東海	0.000000915	5.0×10^{-11}
	近畿	0.00000177	6.5×10^{-11}
	中国	0.000000392	1.2×10^{-11}
	四国	0.000000235	1.3×10^{-11}
	九州	0.000000479	1.2×10^{-11}
	沖縄	3.48E-8	1.5×10^{-11}
全国	0.00101	2.7×10^{-9}	

暴露に関する情報	③河川水中濃度の推定;チオ尿素の2001年度PRTRデータ(届出及び届出外排出量)から推定した全国における水域への排出量116トン/年のうち、河川への排出量は116トン/年と推定される。ここでは、河川への排出量が最も多い事業所に着目し、その排出先である河川水中濃度を推定した。推定にはPRTR対象物質簡易評価システム(日本化学工業協会,2002b)を使用し、対象化学物質の上記事業所における公共用水域への届出排出量、物理化学的性状、及び対象河川の流量データを用いた。推定の結果、チオ尿素の河川水中濃度は190μ g/Lであった。(製品評価技術基盤機構,2004)。
出典	化学物質の初期リスク評価書
備考	

暴露に関する情報	ヒトへの暴露シナリオ(環境経由の暴露):チオ尿素の環境経由のヒトへの暴露経路は、主として呼吸からの吸入暴露と飲料水及び食物からの経口暴露が考えられる。食物中の濃度に関する測定結果は入手できなかったため、本評価書では、食物として魚類のみを考慮する。
出典	化学物質の初期リスク評価書
備考	

暴露に関する情報	ヒトへの暴露シナリオ(消費者製品経由の暴露):入手した用途情報からは、チオ尿素の消費者製品からの暴露は無いものと考えられるので、本評価書においては考慮しない。
出典	化学物質の初期リスク評価書
備考	

暴露に関する情報	推定摂取量:本評価書において各経路からの摂取量を推定する際、成人の空気吸入量を 20m^3 /人/日、飲料水摂取量を2L/人/日、魚類摂取量を120g/人/日とした。推定摂取量の算出は、以下の仮定に従って求めた。大気からの摂取量については、チオ尿素の大気中濃度の測定結果は、調査した範囲では得られていない。一方、AIST-ADMERを用いた中部地域の推定大気中濃度の最大値は、 $1.7 \times 10^{-5} \mu \text{g}/\text{m}^3$ であった。また、2001年度のPRTRデータによると、チオ尿素の大気への排出量は全国で1年間に1kgで、排出源は極めて限られている。これらの結果から、一般環境におけるチオ尿素の呼吸による大気からの暴露は考慮する必要はないと判断する。飲料水については、水道水及び地下水のデータが入手できなかったため、河川水中濃度で代用した。PRTR対象物質簡易評価システムによるチオ尿素の河川水中濃度は、190μ g/Lであった。魚体内濃度は、測定結果が入手できなかったため、海域(内湾)に生息する魚類の体内に濃縮されると考える。チオ尿素の海域に関する測定結果は入手できなかったため、ここでは海域中濃度は、河川水中濃度が1/10に希釈されると仮定し、海域中濃度19μ g/Lに生物濃縮係数(BCF)として2を乗じた値を魚体内濃度として用いる。これらの仮定のもとに推定したヒトでの摂取量は、以下のとおり。
----------	---

	大気からの摂取量: $0(\mu\text{ g/人/日})$ 飲料水からの摂取量: $190(\mu\text{ g/L}) \times 2(\text{L/人/日})$ $=380(\mu\text{ g/人/日})$ 魚類からの摂取量: $190(\mu\text{ g/L}) \times 1/10 \times 2(\text{L/kg}) \times$ $0.12(\text{kg/人/日}) = 4.6(\mu\text{ g/人/日})$ 成人の体重を平均50kgと仮定して、体重1kgあたりの摂取量を求めると次のようになる。 吸入摂取量: $0(\mu\text{ g/人/日})$ 経口摂取量: $(380+4.6)(\mu\text{ g/人/日})/50(\text{kg/人}) = 7.7(\mu\text{ g/kg/日})$
出典	化学物質の初期リスク評価書
備考	

既存分類	国連分類:クラス6.1(毒物)PGIII 国連番号:UN2188 PRTR法:第一種指定化学物質 化審法:指定化学物質(第二種監視化学物質) 労働安全衛生法:名称等を通知すべき有害物 船舶安全法:毒物類 航空法:毒物 港則法:毒物類 EC指令による分類:T+;R40、R63、R22、R51/53
職業暴露限界	
廃棄方法	
文献調査の範囲と日付	化学物質評価研究機構(CERI)・製品評価技術基盤機構(NITE):「有害性評価書」、「化学物質の初期リスク評価書」(暴露に関する情報)、環境省:「化学物質の環境リスク評価」(受胎能) 調査の日付:2007年3月
出典	
備考	

2. 物理化学的性状

2.1 融点

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
融点: °C	176~178
分解: °C	いいえ
昇華: °C	その他: 下欄のセルに記載
	減圧下では、150~160°Cで昇華する。
結論	融点: 176~178°C
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

2.2 沸点

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
沸点: °C	減圧下では昇華する。
圧力	不明
分解: °C	不明
結論	減圧下では昇華する。
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

2.3 密度(比重)

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明

注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	1.406
タイプ	比重
温度(°C)	20°C/4°C
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

2.4 蒸気圧

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
蒸気圧	0.37Pa
温度: °C	25°C
分解: °C	不明
結論	蒸気圧: 0.37Pa (25°C)
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

2.5 分配係数(log Kow)

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
Log Kow	-1.08
温度: °C	不明
結論	log Kow: -1.08
注釈	測定値
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	不明
GLP	該当せず
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
Log Kow	-1.31
温度: °C	不明
結論	log Kow: -1.31
注釈	推定値
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

2.6.1 水溶解性(解離定数を含む)

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明

注釈	該当せず
方法	不明
GLP	不明
試験を行った年	不明
試験条件	不明
結果	
水溶解度	142g/L
温度: °C	25°C
pH	不明
pH測定時の物質濃度	不明
結論	142g/L (25°C)
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	
解離定数	
試験物質	チオ尿素
同一性	該当せず
方法	不明
温度: °C	25
GLP	不明
試験条件	不明
試験を行った年	不明
結果	pKa=2.03 (25°C)
結論	pKa=2.03 (25°C)
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

2.6.2 表面張力

2.7 引火点(液体)

2.8 自己燃焼性 (固体／気体)

2.9 引火性

2.10 爆発性

2.11 酸化性

2.12 酸化還元ポテンシャル

2.13 その他の物理化学的性状に関する情報

3. 環境運命と経路

3.1 安定性

3.1.1. 光分解

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	該当せず
注釈	該当せず
方法	AOPWIN(version 1.91)
タイプ	間接光分解
GLP	該当せず
試験を行った年	2006
光源と波長(nm)	該当せず
太陽光強度に基づいた相対強度	該当せず
物質のスペクトル	該当せず
試験条件	照射時間:12時間/日
結果	
物質濃度	該当せず
温度(°C)	該当せず
直接光分解	
半減期t1/2	該当せず
分解度(%)と時間	該当せず
量子収率 (%)	該当せず
間接光分解	
増感剤(タイプ)	OHラジカル
増感剤濃度	$1.5 \times 10^6 \text{ OH/cm}^3$
速度定数	$42.0000 \times 10^{-12} \text{ cm}^3/\text{molecule}^{-1}\text{s}^{-1}$
半減期t1/2	t1/2=0.255日
分解生成物	いいえ

結論	t1/2=0.255日
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	一般的に認められている計算方法
出典	国による情報提供
引用文献	
備考	

3.1.2. 水中安定性(加水分解性)

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	該当せず
注釈	該当せず
方法	該当せず
GLP	該当せず
試験を行った年	不明
試験条件	該当せず
結果	
設定濃度	該当せず
実測濃度	該当せず
所定時間後の分解度(%)、pH、温度	該当せず
半減期	該当せず
分解生成物	該当せず
結論	チオ尿素には加水分解を受けやすい化学結合はないので、水環境中では加水分解されない。
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

3.1.3. 土壌中安定性

3.2. モニタリングデータ(環境)

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	該当せず
注釈	該当せず
方法	該当せず
測定タイプ(地点)	バックグラウンド
媒体	水
結果	検出数/測定数0/6、検出限界1.1~400μ g/L
結論	不検出
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	該当せず
注釈	該当せず
方法	該当せず
測定タイプ(地点)	バックグラウンド
媒体	底質
結果	検出数/測定数0/6、検出限界0.055~1μ g/g
結論	不検出
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

3.3. 移動と分配

3.3.1 環境区分間の移動

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	該当せず
注釈	該当せず
方法	Fugacity model III
結果	
媒体	大気-水-土壌-底質

環境分布予測と媒体中濃度 (levelIII/III)	分布(%) 大気 水 土壌 底質 0.0441 39.4 60.5 0.0722
結論	分布(%) 大気 水 土壌 底質 0.0441 39.4 60.5 0.0722
注釈	EPISUITE (version 3.12)
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり キースタディ
信頼性の判断根拠	一般的に認められている計算方法
出典	国による情報提供
引用文献	
備考	

3.3.2 分配

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	該当せず
注釈	該当せず
媒体	水-空気
方法	ヘンリー定数
試験条件	該当せず
結果	$1.60 \times 10^{-2} \text{ Pa} \times \text{m}^3/\text{mole}$
結論	$1.60 \times 10^{-2} \text{ Pa} \times \text{m}^3/\text{mole}$
注釈	HENRYWIN (version 3.10)
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり キースタディ
信頼性の判断根拠	一般的に認められている計算方法
出典	国による情報提供
引用文献	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	該当せず
注釈	該当せず
媒体	水-土壌
方法	土壌吸着定数
試験条件	該当せず
結果	Koc=3
結論	Koc=3
注釈	PcKocWIN.2002
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり 選択してください
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

3.4 好気性生分解性

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	化学物質審査規制法に基づく好氣的生分解性試験
培養期間	2週間
植種源	活性汚泥
GLP	いいえ
試験を行った年	不明
試験条件	化学物質審査規制法に基づく好氣的生分解性試験条件
試験物質濃度	100mg/L
汚泥濃度	100mg/L
培養温度 °C	25°C
対照物質および濃度(mg/L)	アニリン 100mg/L
分解度測定方法	BOD測定
分解度算出方法	不明
結果	
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)
分解速度-1	3%(14日目)
分解速度-2	該当せず
分解速度-3	該当せず
分解速度-4	該当せず
分解生成物	不明
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果	TOC測定: 分解率7%(14日目)、HPLC測定: 10%(14日目)、吸光光度測定: 14%(14日目)
対象物質の7, 14日目の分解度	3%(14日目)

その他	不明
結論	難分解性
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

3.5. BOD-5、CODまたはBOD-5／COD比

3.6 生物濃縮性

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	化学物質審査規制法に基づく濃縮性試験
生物種	コイ
暴露期間（日）	42日
曝露濃度	3mg/L、0.3mg/L
排泄期間	不明
GLP	いいえ
試験を行った年	1979
分析方法	試験魚を細切しアセトンにて抽出。ろ液にイオン交換水と炭酸カリウムを加え振とう後、アセトン層を採取。水層にはアセトンを更に加え振とう後、アセトン層を採取。それぞれのアセトン層を合わせて乾固後、カラムクロマトによるクリーンアップを行ったのち、定量のメタノールに溶解しHPLC測定。
試験条件	環保業第5号、薬発第615号、49基局第392号の魚介類の体内における化学物質の濃度試験条件
被験物質溶液	分散剤を用いず、イオン交換水に溶解し原液を調製
対照物質	使用せず
対照物質名及び分析方法	いいえ
試験方式／実施	流水式100Lガラス製水槽にて飼育(25+/-2℃、流量579L/日)。順化は25℃で14日間。繰返し数は測定時点ごとに各2。魚体中濃度検出下限は0.5ppm、定量下限は11.4ppm。
結果	
死亡率／行動	異常なし
脂質含有量（%）	不明
試験中の被験物質濃度	魚体中濃度:0.5ppm未満(2週、3週、4週、6週) 試験水:第1濃度区2.9、3.0、3.0、3.1mg/L(2週、3週、4週、6週) 第2濃度区0.28、0.29、0.29、0.29mg/L(2週、3週、4週、6週)
濃縮係数(BCF)	0.2未満(3mg/L)、2未満(0.3mg/L)
取込／排泄定数	不明
排泄時間	不明
代謝物	該当せず
その他の観察	なし
結論	濃縮性がない又は低い
注釈	該当せず
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり
	キースタディ
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	文献1
備考	

項目名	データ入力欄
(同一の試験項目について複数の試験がある場合、当該項目行をコピー追加してください。)	黄色＝必須項目
	青＝任意項目
	紫＝一部の物質で必須項目

4-1 魚への急性毒性

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	魚類急性毒性試験
GLP	不明
試験を行った年	1981
魚種、系統、供給者	和名：ゼブラフィッシュ
エンドポイント	48時間LC50
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	不明
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	48時間
試験方式	不明
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	不明
試験温度範囲	不明
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	48時間LC50:16000mg/L(設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	魚類急性毒性試験
GLP	不明
試験を行った年	1985
魚種、系統、供給者	和名：ゼブラフィッシュ 学名：Danio rerio
エンドポイント	48時間LC50
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	不明
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	48時間
試験方式	不明
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明

影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	不明
試験温度範囲	不明
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	48時間LC50:10000mg/L(設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	魚類急性毒性試験
GLP	不明
試験を行った年	1984
魚種、系統、供給者	和名:ゼブラフィッシュ 学名: <i>Danio rerio</i>
エンドポイント	96時間LC50 14日間NOEC(致死、毒性症状)
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	体長:3±0.5cm、体重:約2g
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	96時間、14日間
試験方式	半止水
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	不明
試験温度範囲	不明
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	96時間LC50:>10000mg/L(設定濃度) 14日間NOEC(致死、毒性症状):5000mg/L(設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	魚類急性毒性試験
GLP	いいえ
試験を行った年	1974
魚種、系統、供給者	和名:ファットヘッドミノー 学名: <i>Pimephales promelas</i>

エンドポイント	96時間LC50
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	不明
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	脱塩素水道水
希釈水の化学的性質	pH: 7.0-7.5
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	96時間
試験方式	不明
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	不明
試験温度範囲	不明
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	96時間LC50:>100mg/L(設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	魚類急性毒性試験
GLP	不明
試験を行った年	1981
魚種、系統、供給者	和名: ファットヘッドミノー 学名: <i>Pimephales promelas</i>
エンドポイント	96時間LC0
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	不明
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	硬度: 40-48mg CaCO ₃ /L、pH: 7.2-7.6
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	96時間
試験方式	止水
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	不明
試験温度範囲	22±1°C
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
対照区における死亡率	不明

異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	96時間LC0:>600mg/L(測定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	JIS
GLP	不明
試験を行った年	1992
魚種、系統、供給者	和名:メダカ 学名: <i>Oryzias latipes</i>
エンドポイント	48時間LC50
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	体重:約0.2g
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	48時間
試験方式	半止水
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	不明
試験温度範囲	25℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	48時間LC50:<1000mg/L(設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
GLP	不明
試験を行った年	1988
魚種、系統、供給者	和名:コイ科の一種 学名: <i>Leuciscus idus</i>
エンドポイント	48時間LC50 48時間NOEC
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	不明
試験用水量あたりの魚体重	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
じゅん化条件	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	硬度: 48mg CaCO ₃ /L
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず

暴露容器	不明
暴露期間	48時間
試験方式	半止水
換水率/換水頻度	不明
連数、1連当たりの魚数	不明
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	不明
試験温度範囲	不明
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
生物学的影響観察	不明
累積死亡率の表	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
対照区における死亡率	不明
異常反応	不明
その他の観察結果	不明
結論	
結果(96h-LC50)	48時間LC50:>10000mg/L(設定濃度) 48時間NOEC:>10000mg/L(設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	OECD化学品テストガイドラインNo.203「魚類急性毒性試験」(1992年)
GLP	はい
試験を行った年	2002
魚種、系統、供給者	和名:ヒメダカ 学名: <i>Oryzias latipes</i> 自家繁殖
エンドポイント	96時間LC50
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	高速液体クロマトグラフィー質量分析法(検出限界5mg/L)
結果の統計解析手法	限度試験のため該当せず
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	平均被鱗体長1.9cm(1.8~2.0cm)、平均体重0.11g(0.10~0.12g)
試験用水量あたりの魚体重	0.11g×10/4.0L
参照物質での感受性試験結果	硫酸銅(Ⅱ)五水和物による96時間LC50は0.64mg/L
じゅん化条件	試験条件と同条件(水質、温度等)で12日間、暴露開始前7日間の死亡率0%
希釈水源	脱塩素水道水
希釈水の化学的性質	硬度:47mg CaCO3/L、pH:7.7
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	暴気を行い、恒温室内で24±1℃にした希釈水に試験物質を超音波処理により直接溶解
試験物質の溶液中での安定性	試験液中で安定
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	5L容ガラス容器
暴露期間	96時間
試験方式	半止水
換水率/換水頻度	24時間毎全量換水
連数、1連当たりの魚数	1容器/1試験区
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質	溶存酸素濃度:7.4~9.4mg/L、pH:7.0~8.1
試験温度範囲	23.5~24.7℃
照明の状態	室内光、16時間明期/8時間暗期
平均測定濃度の計算方法	算術平均
結果	
設定濃度	対照区(0mg/L)および100mg/L(限度試験)
実測濃度	対照区(0mg/L): <5mg/L 100mg/L区: 112mg/L
生物学的影響観察	異常な行動および外観は観察されず
累積死亡率の表	死亡なし
統計的結果	該当せず
注釈	該当せず
対照区における死亡率	死亡なし
異常反応	なし
その他の観察結果	なし
結論	
結果(96h-LC50)	96時間LC0:110mg/L(実測濃度) 96時間LC50:>110mg/L(実測濃度)

信頼性スコア	1. 制限なく信頼性あり
信頼性の判断根拠	OECD TG203に準拠してGLPで実施した試験であり、試験結果に影響を与える要因はなく、試験計画書からの逸脱もなかった。
出典	環境省「化学物質の生態影響試験について」
引用文献	文献2
備考	

4-2 水生無脊椎動物への急性毒性(例えばミジンコ)

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	ミジンコ急性遊泳阻害試験
GLP	いいえ
試験を行った年	1974
生物種、系統、供給者	和名:オオミジンコ(甲殻類) 学名: <i>Daphnia magna</i>
エンドポイント	遊泳阻害(96時間EC50)
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験生物の起源、前処理、繁殖方法	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
試験開始時の時間齢	生後24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	96時間
試験方式	不明
連数、1連当たりの試験生物数	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	不明
試験温度範囲	不明
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
遊泳阻害数	不明
累積遊泳阻害数の表	不明
注釈	該当せず
対照区における反応は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果(48h-EC50)	96時間EC50(遊泳阻害): 1.8mg/L(設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	化学物質の初期リスク評価書では、オオミジンコの急性毒性について、時間とともに毒性は急激に強まると考えられ、毒性の分類は困難であるとしている。

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	ミジンコ急性遊泳阻害試験
GLP	不明
試験を行った年	1981
生物種、系統、供給者	和名:オオミジンコ(甲殻類) 学名: <i>Daphnia magna</i>
エンドポイント	遊泳阻害(24時間EC50)
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験生物の起源、前処理、繁殖方法	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
試験開始時の時間齢	生後24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	24時間
試験方式	不明

連数、1連当たりの試験生物数	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	不明
試験温度範囲	不明
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
遊泳阻害数	不明
累積遊泳阻害数の表	不明
注釈	該当せず
対照区における反応は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果(48h-EC50)	24時間EC50(遊泳阻害):110mg/L(設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	化学物質の初期リスク評価書では、オオミジンコの急性毒性について、時間とともに毒性は急激に強まると考えられ、毒性の分類は困難であるとしている。

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	EEC(現EUテストガイドライン)
GLP	不明
試験を行った年	1984
生物種、系統、供給者	和名:オオミジンコ(甲殻類) 学名: <i>Daphnia magna</i>
エンドポイント	遊泳阻害(24時間EC50)
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験生物の起源、前処理、繁殖方法	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
試験開始時の時間齢	生後24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	24時間
試験方式	止水
連数、1連当たりの試験生物数	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	不明
試験温度範囲	20℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
遊泳阻害数	不明
累積遊泳阻害数の表	不明
注釈	該当せず
対照区における反応は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果(48h-EC50)	24時間EC50(遊泳阻害):4000-6000mg/L(設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	化学物質の初期リスク評価書では、オオミジンコの急性毒性について、時間とともに毒性は急激に強まると考えられ、毒性の分類は困難であるとしている。

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	EEC(現EUテストガイドライン)
GLP	不明
試験を行った年	1984
生物種、系統、供給者	和名:オオミジンコ(甲殻類) 学名: <i>Daphnia magna</i>
エンドポイント	遊泳阻害(24時間EC50)

試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験生物の起源、前処理、繁殖方法	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
試験開始時の時間齢	生後24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	硬度：285.6mg CaCO ₃ /L、pH：7.6-7.7
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	24時間
試験方式	止水
連数、1連当たりの試験生物数	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	不明
試験温度範囲	20℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
遊泳阻害数	不明
累積遊泳阻害数の表	不明
注釈	該当せず
対照区における反応は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果(48h-EC50)	24時間EC50(遊泳阻害)：5.6mg/L(設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	化学物質の初期リスク評価書では、オオミジンコの急性毒性について、時間とともに毒性は急激に強まると考えられ、毒性の分類は困難であるとしている。

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	ミジンコ類急性遊泳阻害試験
GLP	不明
試験を行った年	1990
生物種、系統、供給者	和名：オオミジンコ(甲殻類) 学名： <i>Daphnia magna</i>
エンドポイント	48時間LC50
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験生物の起源、前処理、繁殖方法	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
試験開始時の時間齢	生後24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	硬度：250mg CaCO ₃ /L、pH：8.2
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	48時間
試験方式	止水
連数、1連当たりの試験生物数	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	不明
試験温度範囲	20℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
遊泳阻害数	不明
累積遊泳阻害数の表	不明
注釈	該当せず
対照区における反応は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明

結論	
結果(48h-EC50)	48時間LC50:9mg/L(設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	化学物質の初期リスク評価書では、オオミジンコの急性毒性について、時間とともに毒性は急激に強まると考えられ、毒性の分類は困難であるとしている。

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	ミジンコ類急性遊泳阻害試験
GLP	不明
試験を行った年	1992
生物種、系統、供給者	和名:オオミジンコ(甲殻類) 学名: <i>Daphnia magna</i>
エンドポイント	遊泳阻害(24時間EC50) 遊泳阻害(48時間EC50)
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験生物の起源、前処理、繁殖方法	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
試験開始時の時間齢	生後24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	48時間
試験方式	その他
連数、1連当たりの試験生物数	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	不明
試験温度範囲	不明
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
遊泳阻害数	不明
累積遊泳阻害数の表	不明
注釈	該当せず
対照区における反応は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果(48h-EC50)	24時間EC50(遊泳阻害):>5000mg/L(設定濃度) 48時間C50(遊泳阻害):35mg/L(設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	化学物質の初期リスク評価書では、オオミジンコの急性毒性について、時間とともに毒性は急激に強まると考えられ、毒性の分類は困難であるとしている。

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	OECD化学品テストガイドラインNo.202「ミジンコ類、急性遊泳阻害試験及び繁殖試験」(1984年)、ただし2002年度改訂版の内容を一部取り入れた。
GLP	はい
試験を行った年	2002
生物種、系統、供給者	和名:オオミジンコ(甲殻類) 学名: <i>Daphnia magna</i> 自家繁殖
エンドポイント	遊泳阻害(24時間EC50) 遊泳阻害(48時間EC50)
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	高速液体クロマトグラフィー質量分析法(検出限界0.05mg/L)
結果の統計解析手法	統計ソフトTOXDAT MULTI-METHOD PROGRAM(EPA/600/4-85/013)
試験条件	
試験生物の起源、前処理、繁殖方法	国立環境研究所より入手、自家繁殖
参照物質での感受性試験結果	重クロム酸カリウムによる48時間の半数遊泳阻害濃度:0.75mg/L

試験開始時の時間齢	生後24時間以内																																
希釈水源	脱塩素水道水																																
希釈水の化学的性質	硬度:85mg CaCO3/L、pH:7.2																																
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	暴気を行い、恒温室内で20±1℃にした希釈水に試験物質を超音波処理により溶解し原液(1000mg/L)を用時調製。原液を希釈水に添加し試験溶液を調製。																																
試験物質の溶液中での安定性	試験液中で安定																																
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず																																
暴露容器	100mL容ガラス製ビーカー																																
暴露期間	48時間																																
試験方式	止水																																
連数、1連当たりの試験生物数	4容器／1試験区																																
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	溶存酸素濃度:9.1～9.3mg/L、pH:7.8～7.9																																
試験温度範囲	19.1～19.6℃																																
照明の状態	室内光、16時間明期／8時間暗期																																
平均測定濃度の計算方法	算術平均																																
結果																																	
設定濃度	対照区(0mg/L)、7.5、10、13、18、24、32、42 mg/L																																
実測濃度	<0.05、7.77、11.2、14.0、18.7、25.7、32.1、43.8 mg/L																																
遊泳阻害数	次表参照																																
累積遊泳阻害数の表	<table><tr><td rowspan="2">実測濃度</td><td colspan="2">累積遊泳阻害数</td></tr><tr><td colspan="2">遊泳阻害個体数／暴露個体数(遊泳阻害率)</td></tr><tr><td></td><td>24時間</td><td>48時間後</td></tr><tr><td>対照</td><td>0/20(0)</td><td>0/20(0)</td></tr><tr><td>7.77mg/L</td><td>0/20(0)</td><td>0/20(0)</td></tr><tr><td>11.2</td><td>0/20(0)</td><td>0/20(0)</td></tr><tr><td>14.0</td><td>4/20(20)</td><td>6/20(30)</td></tr><tr><td>18.7</td><td>12/20(60)</td><td>17/20(85)</td></tr><tr><td>25.7</td><td>12/20(60)</td><td>20/20(100)</td></tr><tr><td>32.1</td><td>10/20(50)</td><td>20/20(100)</td></tr><tr><td>43.8</td><td>15/20(75)</td><td>20/20(100)</td></tr></table>	実測濃度	累積遊泳阻害数		遊泳阻害個体数／暴露個体数(遊泳阻害率)			24時間	48時間後	対照	0/20(0)	0/20(0)	7.77mg/L	0/20(0)	0/20(0)	11.2	0/20(0)	0/20(0)	14.0	4/20(20)	6/20(30)	18.7	12/20(60)	17/20(85)	25.7	12/20(60)	20/20(100)	32.1	10/20(50)	20/20(100)	43.8	15/20(75)	20/20(100)
実測濃度	累積遊泳阻害数																																
	遊泳阻害個体数／暴露個体数(遊泳阻害率)																																
	24時間	48時間後																															
対照	0/20(0)	0/20(0)																															
7.77mg/L	0/20(0)	0/20(0)																															
11.2	0/20(0)	0/20(0)																															
14.0	4/20(20)	6/20(30)																															
18.7	12/20(60)	17/20(85)																															
25.7	12/20(60)	20/20(100)																															
32.1	10/20(50)	20/20(100)																															
43.8	15/20(75)	20/20(100)																															
注釈	24時間EC50は遊泳阻害率に逆転が認められたため算出せず																																
対照区における反応は妥当か	はい																																
対照区における反応の妥当性の考察	暴露終了時の対照区の死亡率およびミジンコの水面に浮く率0%であり、試験の有効性基準を満たした。																																
結論																																	
結果(48h-EC50)	48時間EC50(遊泳阻害):16mg/L(実測濃度)(95%信頼区間:15～17mg/L) 24時間EC0:11mg/L(実測濃度) 48時間EC0:11mg/L(実測濃度) 24時間EC100:>44mg/L(実測濃度) 48時間EC100:26mg/L(実測濃度)																																
信頼性スコア	1. 制限なく信頼性あり																																
信頼性の判断根拠	OECD TG202に準拠してGLPで実施した試験であり、試験結果に影響を与える要因はなく、試験計画書からの逸脱もなかった。																																
出典	環境省「化学物質の生態影響試験について」																																
引用文献	文献3																																
備考																																	

4-3 水生植物への毒性(例えば藻類)

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	藻類生長阻害試験
GLP	不明
試験を行った年	1985
生物種、系統、供給者	和名:セネデスムス(緑藻) 学名: <i>Scenedesmus subspicatus</i> (現学名: <i>Desmodesmus subspicatus</i>)
エンドポイント	生長阻害
毒性値算出に用いたデータの種類	不明
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験施設での藻類継代培養方法	不明
藻類の前培養の方法及び状況	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
希釈水源	不明
培地の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	96時間
試験方式	止水
連数	3回(詳細不明)

各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質	不明
試験温度範囲	22℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
細胞密度	不明
生長阻害率(%)	不明
各濃度区における生長曲線	不明
その他観察結果	不明
注釈	該当せず
対照区での生長は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果 (ErC50)	96時間EC50: 6.8mg/L (3回の平均値)、4.8–10mg/L (範囲) 設定濃度
結果 (NOEC)	96時間EC10: 0.42mg/L (3回の平均値)、0.3–0.6mg/L (範囲) 設定濃度
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62–56–6
方法	該当なし
GLP	不明
試験を行った年	1984
生物種、系統、供給者	和名: セネデスムス(緑藻) 学名: <i>Scenedesmus subspicatus</i> (現学名: <i>Desmodesmus subspicatus</i>)
エンドポイント	生長阻害
毒性値算出に用いたデータの種類	不明
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験施設での藻類継代培養方法	不明
藻類の前培養の方法及び状況	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
希釈水源	不明
培地の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	96時間
試験方式	止水
連数	3回(詳細不明)
各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質	不明
試験温度範囲	22℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
細胞密度	不明
生長阻害率(%)	不明
各濃度区における生長曲線	不明
その他観察結果	不明
注釈	該当せず
対照区での生長は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果 (ErC50)	96時間EC50: 4.4mg/L (3回の平均値)、3.8–4.0mg/L (範囲) 設定濃度
結果 (NOEC)	96時間EC10: 0.83mg/L (3回の平均値)、0.5–1.3mg/L (範囲) 設定濃度
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当なし
GLP	いいえ
試験を行った年	1974
生物種、系統、供給者	和名：セテナストラム（緑藻） 学名： <i>Selenastrum capricornutum</i> （現学名： <i>Pseudokirchnerislla subcapitata</i> ）
エンドポイント	生長阻害
毒性値算出に用いたデータの種類	不明
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験施設での藻類継代培養方法	不明
藻類の前培養の方法及び状況	不明
参照物質での感受性試験結果	不明
希釈水源	不明
培地の化学的性質	不明
試験溶液（及び保存溶液）とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	不明
暴露期間	7日間
試験方式	止水
連数	不明
各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質	不明
試験温度範囲	21±1℃
照明の状態	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
細胞密度	不明
生長阻害率(%)	不明
各濃度区における生長曲線	不明
その他観察結果	不明
注釈	該当せず
対照区での生長は妥当か	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明
結論	
結果（ErC50）	7日間EC50: 1-10mg/L 設定濃度
結果（NOEC）	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書（化学物質の初期リスク評価書）からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	OECD化学品テストガイドラインNo.201「藻類生長阻害試験」（1984年）
GLP	はい
試験を行った年	2002
生物種、系統、供給者	和名：セテナストラム（緑藻） 学名： <i>Selenastrum capricornutum</i> （現学名： <i>Pseudokirchnerislla subcapitata</i> ）
エンドポイント	生長阻害
毒性値算出に用いたデータの種類	生長速度、生長曲線下面積
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	高速液体クロマトグラフィー質量分析法（検出限界0.5mg/L）
結果の統計解析手法	NOEC：Dunnettの多重比較法
試験条件	
試験施設での藻類継代培養方法	無菌的に継体培養
藻類の前培養の方法及び状況	試験条件と同じ条件で暴露開始前に3日間培養
参照物質での感受性試験結果	重クロム酸カリウムによる72時間の50%生長阻害濃度（面積法）：0.53mg/L
希釈水源	不明
培地の化学的性質	OECD化学品テストガイドラインに示されている培地
試験溶液（及び保存溶液）とその調製法	用時調製
試験物質の溶液中での安定性	試験液中で安定
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露容器	500mL容ガラス製三角フラスコ（通気性シリコン栓）
暴露期間	72時間
試験方式	止水
連数	3容器／1試験区
各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質	試験開始時pH: 7.9～8.0 試験終了時pH: 8.0～8.2

試験温度範囲	22.1～22.5℃				
照明の状態	4100～4300lx(連続照明)				
平均測定濃度の計算方法	算術平均				
結果					
設定濃度	対照区 (0mg/L), 10, 18, 32, 56, 100mg/L				
実測濃度	<0.5, 11.0, 17.7, 33.7, 57.9, 106mg/L				
細胞密度	細胞濃度 (×10 ⁴ 細胞／mL)				
	実測濃度	0時間	24時間	48時間	72時間
	(mg/L)				
	対照	1.0	6.51	38.14	189.03
	11.0	1.0	6.24	34.19	198.30
	17.7	1.0	5.22	34.29	187.17
	33.7	1.0	6.18	36.02	201.30
	57.9	1.0	5.06	28.07	120.63
106	1.0	3.62	20.60	96.89	
生長阻害率(%)	生長速度阻害率(%)				
	実測濃度	24～48時間		24～72時間	
	(mg/L)				
	11.0	3.56	-2.80		
	17.7	-6.80	-6.40		
	33.7	0.05	-3.52		
57.9	2.94	5.83			
106	2.01	2.40			
各濃度区における生長曲線	前々項参照				
その他観察結果	全試験区において色調の異常、細胞の変形および異常な細胞の出現は観察されず				
注釈	該当せず				
対照区での生長は妥当か	はい				
対照区における反応の妥当性の考察	72時間後に暴露開始時の細胞濃度の16倍以上に増加したため、試験の有効性水準を満たした。				
結論					
結果(ErC50)	24～48時間EC50(速度法):110mg/L以上(実測濃度)				
	24～72時間EC50(速度法):110mg/L以上(実測濃度)				
	0～72時間EC50(面積法):110mg/L以上(実測濃度)				
結果(NOEC)	24～48時間NOEC(速度法):110mg/L(実測濃度)				
	24～72時間NOEC(速度法):34mg/L(実測濃度)				
	0～72時間NOEC(面積法):34mg/L(実測濃度)				
信頼性スコア	1. 制限なく信頼性あり				
信頼性の判断根拠	OECD TG201に準拠してGLPで実施した試験であり、試験結果に影響を与える要因はなく、試験計画書からの逸脱もなかった。				
出典	環境省「化学物質の生態影響試験について」				
引用文献	文献4				
備考					

4-4 微生物への毒性(例えばバクテリア)

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	1988
生物種	和名:シュードモナス(細菌) 学名: <i>Pseudomonas putida</i>
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
暴露期間	18時間
試験条件	温度: 25℃
結果	
毒性値	18時間EC10(増殖阻害):1265mg/L 18時間EC95(増殖阻害):27200mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	18時間EC10(増殖阻害):1265mg/L 18時間EC95(増殖阻害):27200mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	チオ尿素
同一性	62-56-6
方法	該当せず
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	1984
生物種	都市下水処理活性汚泥中好気性微生物

試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
暴露期間	10分間
試験条件	不明
結果	
毒性値	10分間EC20(酸素消費量阻害):205mg/L 10分間EC50(酸素消費量阻害):4400mg/L 10分間EC80(酸素消費量阻害):100000mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	10分間EC20(酸素消費量阻害):205mg/L 10分間EC50(酸素消費量阻害):4400mg/L 10分間EC80(酸素消費量阻害):100000mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	1986
生物種	学名: <i>Photobacterium phosphoreum</i> 海洋性発光細菌
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
暴露期間	15分間
試験条件	不明
結果	
毒性値	15分間EC50(発光阻害):3324mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	15分間EC50(発光阻害):3324mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	1991
生物種	学名: <i>Photobacterium phosphoreum</i> 海洋性発光細菌
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
暴露期間	20分間
試験条件	温度:15℃
結果	
毒性値	20分間EC10(発光阻害):570mg/L 20分間EC20(発光阻害):1000mg/L 20分間EC50(発光阻害):3100mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	20分間EC10(発光阻害):570mg/L 20分間EC20(発光阻害):1000mg/L 20分間EC50(発光阻害):3100mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
試験の種類	水生
GLP	不明
試験を行った年	1974
生物種	都市下水処理活性汚泥中好気性微生物
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず

暴露期間	400分間
試験条件	不明
結果	
毒性値	10分間EC50(酸素消費量阻害):100mg/L
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	10分間EC50(酸素消費量阻害):100mg/L
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
試験の種類	土壌
GLP	いいえ
試験を行った年	1957
生物種	土壌中細菌/菌類
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
暴露期間	42週間
試験条件	土壌の水分:40% 試験濃度:10gチオ尿素/kg土壌
結果	
毒性値	チオ尿素を添加寒天培地で培養、細菌/菌類数を計数 42週培養後、細菌+放線菌数の減少 (数百万個/g土壌⇒2-3,000個/g土壌) 減少率: 99%以上
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	チオ尿素を添加寒天培地で培養、細菌/菌類数を計数 42週培養後、細菌+放線菌数の減少 (数百万個/g土壌⇒2-3,000個/g土壌) 減少率: 99%以上
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
試験の種類	土壌
GLP	いいえ
試験を行った年	1970
生物種	和名: ペニシリウム属の一種 学名: <i>Penicillium rugulosum</i>
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
暴露期間	7日間
試験条件	試験温度: 28℃ 試験濃度: 100、250、500、1,000及び2,000 mg/L
結果	
毒性値	500 mg/L以下で誘導期にpHの大幅低下がみられたが、対数増殖期は継続(2-5日) 1,000 mg/L増殖率低下 2,000 mg/L増殖停止
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	1,000 mg/L増殖率低下 2,000 mg/L増殖停止
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
試験の種類	土壌
GLP	いいえ
試験を行った年	1976
生物種	Helminthosporium sativum(作物病原菌) Fusarium oxysporum f. udum(作物病原菌)
試験物質の分析の有無	なし

試験物質の分析方法	該当せず
暴露期間	15日間
試験条件	Czapek培地、15日間26℃で培養、菌糸を回収洗浄後、65℃、96時間の乾燥 試験濃度：10-1000mg/L
結果	
毒性値	菌糸乾重量と糖含量の減少(用量依存的) 増殖停止 750-1,000 mg/L (H. sativum及びF. oxysporum) 糖の消失 500 mg/L以上 (H. sativum)、1,000 mg/L (F. oxysporum)
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	増殖停止 750-1,000 mg/L (H. sativum及びF. oxysporum) 糖の消失 500 mg/L以上 (H. sativum)、1,000 mg/L (F. oxysporum)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
試験の種類	土壌
GLP	不明
試験を行った年	1985
生物種	土壌硝化細菌
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
暴露期間	20日間
試験条件	窒素濃度200 ppm 0.5mLの栄養培地(400μ gアンモニア) 0.3-0.4mLの水を1gの風乾供試土に添加 20日間、30℃で培養 試験濃度：100及び200μ g/L培地のチオ尿素溶液
結果	
毒性値	用量依存的な硝化の阻害 チオ尿素が窒素含量の10%を占めると、アンモニアの硝酸/亜硝酸への酸化を完全に抑制
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	チオ尿素が窒素含量の10%を占めると、アンモニアの硝酸/亜硝酸への酸化を完全に抑制
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
試験の種類	土壌
GLP	不明
試験を行った年	1985
生物種	土壌菌叢
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
暴露期間	不明
試験条件	500mg/kg土壌
結果	
毒性値	菌相に変化 Trichoderma harzianum及びPenicillium pupurogenumの増殖に好影響 Sclerotium rolfsiiの発芽を阻害
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50等)	500mg/kg土壌で、Trichoderma harzianum及びPenicillium pupurogenumの増殖に好影響、Sclerotium rolfsiiの発芽を阻害
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

A. 魚への慢性毒性 生理的な研究に関するもののみ

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
GLP	いいえ
試験を行った年	1952
魚種、系統、供給者	和名:グッピー 学名: <i>Poecilia reticulata</i>
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
エンドポイント	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	ふ化～性成熟の90日間
餌の種類、給餌量、給餌頻度	不明
孵化後の移動までの時間	不明
最初の給餌までの時間	不明
試験開始2週間前までの疾病対策のための処理	不明
胚と仔魚の取扱方法	不明
暴露チャンバーの材質など	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
試験溶液の調製方法	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
暴露期間	ふ化～性成熟の90日間
その他	試験温度:22℃、換水1回/週
測定項目、測定に伴うサンプル採取時期、サンプリング間隔、手順	不明
試験方式	半止水
結果	
用量設定試験の実施の有無	不明
用量設定試験結果	該当せず
設定濃度	300mg/L
実測濃度	不明
影響(対照区含む)	300mg/L、ふ化～性成熟の90日間の暴露で、甲状腺及び上皮小体の過形成及び肥大、体重増加の抑制、性分化及び性腺成熟の遅延が見られた
胚、仔魚、稚魚の各成長段階及び全体における死亡/生存データ	不明
ふ化の開始時間及び終了時間	不明
各日のふ化した仔魚数	不明
生存個体の体長/体重	不明
奇形の発症した仔魚数	不明
異常行動を示す魚数	不明
その他の影響	不明
注釈	該当せず
結論	
EC50	不明
NOEC、LOEC	不明
信頼性スコア	4. 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	一般的な試験でないため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
GLP	いいえ
試験を行った年	1952
魚種、系統、供給者	和名:コイ科アブラハヤ類 学名: <i>Phoxinus laevis</i>
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
エンドポイント	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	不明
餌の種類、給餌量、給餌頻度	不明
孵化後の移動までの時間	不明
最初の給餌までの時間	不明
試験開始2週間前までの疾病対策のための処理	不明
胚と仔魚の取扱方法	不明
暴露チャンバーの材質など	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
試験溶液の調製方法	不明

各日のふ化した仔魚数	不明
生存個体の体長／体重	不明
奇形の発症した仔魚数	不明
異常行動を示す魚数	不明
その他の影響	不明
注釈	該当せず
結論	
EC50	不明
NOEC、LOEC	不明
信頼性スコア	4. 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	一般的な試験でないため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
GLP	いいえ
試験を行った年	1975
魚種、系統、供給者	和名：ベニザケ 学名： <i>Oncorhynchus nerka</i>
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
エンドポイント	不明
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
試験魚の月齢、体長、体重	性成熟最後期から7-14週間
餌の種類、給餌量、給餌頻度	不明
孵化後の移動までの時間	不明
最初の給餌までの時間	不明
試験開始2週間前までの疾病対策のための処理	不明
胚と仔魚の取扱方法	不明
暴露チャンバーの材質など	不明
試験溶液（及び保存溶液）とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
試験溶液の調製方法	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
暴露期間	性成熟最後期から7-14週間
その他	試験温度：10℃、換水2回/週
測定項目、測定に伴うサンプル採取時期、サンプリング間隔、手順	不明
試験方式	半止水
結果	
用量設定試験の実施の有無	不明
用量設定試験結果	該当せず
設定濃度	300, 600mg/L
実測濃度	不明
影響（対照区含む）	300、600mg/L、性成熟最後期から7-14週間の暴露で以下の影響が観察された 甲状腺への影響あり(組織学的) 精巣、二次性徴に影響なし 皮膚厚の自然増加に軽度の阻害あり 性腺刺激ホルモン産生細胞を含む下垂体前葉細胞に変化 生殖腺摘出魚では甲状腺上皮の肥大（下垂体前葉背尾部の甲状腺刺激ホルモン分泌細胞肥大と組織学的変化と関連）
胚、仔魚、稚魚の各成長段階及び全体における死亡／生存データ	不明
ふ化の開始時間及び終了時間	不明
各日のふ化した仔魚数	不明
生存個体の体長／体重	不明
奇形の発症した仔魚数	不明
異常行動を示す魚数	不明
その他の影響	不明
注釈	該当せず
結論	
EC50	不明
NOEC、LOEC	不明
信頼性スコア	4. 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	一般的な試験でないため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

B. 水生無脊椎動物への慢性毒性

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	EEC（現EUテストガイドライン）
GLP	不明
試験を行った年	1984

試験生物種	和名:オオミジンコ(甲殻類) 学名: <i>Daphnia magna</i>
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
エンドポイント	繁殖(21日間LOEC)
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
助剤使用の有無	不明
助剤の種類、濃度、助剤対照区の有無	不明
試験温度	20℃
pH	不明
硬度	不明
試験生物の情報	生後24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露期間	21日間
暴露容器	不明
連数、1連当たりの試験生物数	不明
照明	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
実測濃度の詳細	不明
累積遊泳阻害数	不明
累積産仔数	不明
対照区における反応は妥当か	いいえ
生理的影響	該当せず
試験の妥当性	対照区の親一頭あたりの産仔数がテストガイドラインの有効性基準を満たしておらず、信頼性は低い
注釈	該当せず
結論	
結果(EC50)	不明
結果(NOEC, LOEC)	21日間LOEC(繁殖): $\leq 0.25\text{mg/L}$ (設定濃度)
信頼性スコア	3. 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、対照区の親一頭あたりの産仔数がテストガイドラインの有効性基準を満たしておらず、信頼性は低いと記載されている
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	EEC(現EUテストガイドライン)
GLP	不明
試験を行った年	1984
試験生物種	和名:オオミジンコ(甲殻類) 学名: <i>Daphnia magna</i>
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
エンドポイント	繁殖(21日間NOEC) 初産日(21日間NOEC)
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
助剤使用の有無	不明
助剤の種類、濃度、助剤対照区の有無	不明
試験温度	20℃
pH	7.6-7.7
硬度	285.6mg CaCO ₃ /L
試験生物の情報	生後24時間以内
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず
暴露期間	21日間
暴露容器	不明
連数、1連当たりの試験生物数	不明
照明	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	不明
平均測定濃度の計算方法	不明

結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
実測濃度の詳細	不明
累積遊泳阻害数	不明
累積産仔数	不明
対照区における反応は妥当か	不明
生理的影響	該当せず
試験の妥当性	不明
注釈	該当せず
結論	
結果 (EC50)	不明
結果 (NOEC、LOEC)	21日間NOEC(繁殖):0.75mg/L(設定濃度) 21日間NOEC(初産日):2.0mg/L(設定濃度)
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
GLP	不明
試験を行った年	1985
試験生物種	和名:オオミジンコ(甲殻類) 学名: <i>Daphnia magna</i>
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
エンドポイント	繁殖(21日間NOEC)
結果の統計解析手法	不明
試験条件	
助剤使用の有無	不明
助剤の種類、濃度、助剤対照区の有無	不明
試験温度	不明
pH	不明
硬度	不明
試験生物の情報	不明
希釈水源	不明
希釈水の化学的性質	不明
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	不明
試験物質の溶液中での安定性	不明
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	不明
暴露期間	21日間
暴露容器	不明
連数、1連当たりの試験生物数	不明
照明	不明
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	不明
平均測定濃度の計算方法	不明
結果	
設定濃度	不明
実測濃度	不明
実測濃度の詳細	不明
累積遊泳阻害数	不明
累積産仔数	不明
対照区における反応は妥当か	不明
生理的影響	該当せず
試験の妥当性	不明
注釈	該当せず
結論	
結果 (EC50)	不明
結果 (NOEC、LOEC)	21日間NOEC(繁殖):0.1mg/L(設定濃度)
信頼性スコア	4. 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、原著での確認が出来ないため参考値として扱われている
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	OECD化学品テストガイドラインNo.211「オオミジンコ繁殖試験」(1998年)
GLP	はい
試験を行った年	2002
試験生物種	和名:オオミジンコ(甲殻類) 学名: <i>Daphnia magna</i>
試験物質の分析の有無	あり
試験物質の分析方法	高速液体クロマトグラフィー質量分析法(検出限界0.05mg/L)

エンドポイント	繁殖(21日間EC50、21日間NOEC、21日間LOEC)								
結果の統計解析手法	EC50:Logit変換による単回帰分析法 NOEC、LOEC:Dunnetの多重比較検定法								
試験条件									
助剤使用の有無	なし								
助剤の種類、濃度、助剤対照区の有無	該当せず								
試験温度	19.1～20.3℃								
pH	7.7～8.2								
硬度	84～89mg CaCO3/L								
試験生物の情報	国立環境研究所より入手、自家繁殖、生後24時間以内、対照区あり								
希釈水源	脱塩素水道水								
希釈水の化学的性質	硬度:83mg CaCO3/L、pH:7.3								
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法	暴気を行い、恒温室内で20±1℃にした希釈水に試験物質を超音波処理により溶解し原液(1000mg/L)を用時調製。原液を希釈水に添加し試験溶液を調製。								
試験物質の溶液中での安定性	試験液中で安定								
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	使用せず								
暴露期間	21日間								
暴露容器	100mL容ガラス製ビーカー								
連数、1連当たりの試験生物数	10容器／1試験区								
照明	室内光、16時間明期／8時間暗期								
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質	溶存酸素濃度:8.8～10.3mg/L、pH:7.7～8.2								
平均測定濃度の計算方法	算術平均								
結果									
設定濃度	対照区(0mg/L)、1.0、1.8、3.2、5.6、10、18、32 mg/L								
実測濃度	<0.05、1.07、1.84、3.35、6.12、11.5、19.7、35.2 mg/L								
実測濃度の詳細	設定濃度 (mg/L)	実測濃度(mg/L)							平均
	対照	0日 開始時	1日	7日 換水後	8日	14日 換水後	15日		
	1.0	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		1.07
	1.8	1.10	1.07	1.02	1.04	1.08	1.11		1.84
	3.2	1.88	1.89	1.68	1.74	1.91	1.94		3.35
	5.6	3.53	3.46	3.10	3.19	3.41	3.40		6.12
	10	6.39	6.17	5.77	5.96	6.00	6.45		11.5
	18	11.7	11.5	11.0	11.2	11.2	12.2		19.7
	32	20.2	19.1	－	－	－	－		35.2
	32	35.6	34.7	－	－	－	－		
累積遊泳阻害数	実測濃度 (mg/L)	21日後の死亡率(%)							
	対照	0							
	1.07	0							
	1.84	0							
	3.35	0							
	6.12	10							
	11.5	0							
	19.7	100							
35.2	100								
累積産仔数	実測濃度 (mg/L)	21日後の生存親1頭当たりの平均累積産仔数							
	対照	179.4							
	1.07	184.3							
	1.84	167.7							
	3.35	117.6							
	6.12	15.2							
	11.5	1.4							
対照区における反応は妥当か	はい								
生理的影響	該当せず								
試験の妥当性	暴露終了時に対照区の親ミジンコの死亡率が0%(20%以下)、平均累積産仔数が179.4頭(60頭以上)で試験成立								
注釈	該当せず								
結論									
結果(EC50)	21日間EC50(繁殖):3.6mg/L(実測濃度)(95%信頼区間:3.6～3.7mg/L)								
結果(NOEC、LOEC)	21日間NOEC(繁殖):1.8mg/L(実測濃度) 21日間LOEC(繁殖):3.4mg/L(実測濃度)								
信頼性スコア	1. 制限なく信頼性あり								
信頼性の判断根拠	OECD TG211に準拠してGLPで実施した試験であり、試験結果に影響を与える要因はなく、試験計画書からの逸脱もなかった。								
出典	環境省「化学物質の生態影響試験について」								
引用文献	文献5								
備考									

A. 陸生植物への毒性

試験物質	thiourea										
同一性	62-56-6										
方法	該当なし										
試験の種類	人工土壌										
GLP	不明										
試験を行った年	1984										
種	<i>Lycopersicum esculentum</i> (トマト)										
試験物質の分析の有無	なし										
試験物質の分析方法	該当せず										
エンドポイント	根の生育										
暴露期間	4週間										
試験条件	培地中で4週間暴露 試験濃度: 12、18、23、46 mg/L										
結果											
毒性値	培地中で4週間暴露で根の生育に以下の影響が見られた。 <table> <tr> <td>試験濃度</td><td>根の生育</td></tr> <tr> <td>12mg/L</td><td>45%増加</td></tr> <tr> <td>18mg/L</td><td>45%減少</td></tr> <tr> <td>23mg/L</td><td>60%減少</td></tr> <tr> <td>46mg/L</td><td>30%減少</td></tr> </table>	試験濃度	根の生育	12mg/L	45%増加	18mg/L	45%減少	23mg/L	60%減少	46mg/L	30%減少
試験濃度	根の生育										
12mg/L	45%増加										
18mg/L	45%減少										
23mg/L	60%減少										
46mg/L	30%減少										
注釈	該当せず										
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり										
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ										
出典	化学物質の初期リスク評価書										
引用文献											
備考											

試験物質	チオ尿素
同一性	62-56-6
方法	OECD TG208
試験の種類	その他
GLP	不明
試験を行った年	1984
種	<i>Brassica rapa</i> (カブラ)
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
エンドポイント	総植物体重量/総種子数(14日間EC50) 総植物体重量/総生育植物数(14日間EC50)
暴露期間	14日間
試験条件	ファイトロン内での高等植物の発育試験
結果	
毒性値	14日間EC50(総植物体重量/総種子数): 12mg/kg乾土 14日間EC50(総植物体重量/総生育植物数): 32mg/kg乾土
注釈	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	OECD TG208
試験の種類	その他
GLP	不明
試験を行った年	1984
種	<i>Avena sativa</i> (カラスムギ)
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
エンドポイント	総植物体重量/総種子数(14日間EC50) 総植物体重量/総生育植物数(14日間EC50)
暴露期間	14日間
試験条件	ファイトロン内での高等植物の発育試験
結果	
毒性値	14日間EC50(総植物体重量/総種子数): 190mg/kg乾土 14日間EC50(総植物体重量/総生育植物数): 205mg/kg乾土
注釈	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	BBA法
試験の種類	その他
GLP	不明
試験を行った年	1986

種	作物等15種																																																																																
試験物質の分析の有無	なし																																																																																
試験物質の分析方法	該当せず																																																																																
エンドポイント	発芽率及び新芽重量測定																																																																																
暴露期間	14日間																																																																																
試験条件	ファイトロン内での作物発育試験																																																																																
結果																																																																																	
毒性値	<div>作物発育試験結果</div> <div>+: 刺激、A: NOEL、B: <EC30、C: EC30～EC50、D: >EC50</div> <div>チオ尿素添加量 (mg/kg土壌)</div> <table><thead><tr><th>植物</th><th>1</th><th>10</th><th>100</th><th>1000</th></tr></thead><tbody><tr><td>Sinapis alba シロウガラシ</td><td>+</td><td>A</td><td>B</td><td>D</td></tr><tr><td>Brassica napus マスタード</td><td>A</td><td>+</td><td>A</td><td>D</td></tr><tr><td>Brassica rapa カブラ</td><td>+</td><td>+</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>Brassica chinensis チンゲンサイ</td><td>B</td><td>+</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>Raphnus sativas ハツカダイコン</td><td>+</td><td>+</td><td>+</td><td>D</td></tr><tr><td>Vicia sativa ヤハス'エンドウ</td><td>B</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>Phaseolus aureus ブントウ</td><td>B</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>Trifolium pratense アカツメクサ</td><td>A</td><td>B</td><td>D</td><td>D</td></tr><tr><td>Trigonella meliotuscoerulea コロハ</td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>Lolium perenne ホソムギ</td><td>B</td><td>+</td><td>+</td><td>D</td></tr><tr><td>Avena sativa カラスムギ</td><td>+</td><td>+</td><td>+</td><td>D</td></tr><tr><td>Triticum aestivum コムギ</td><td>+</td><td>+/-</td><td>+</td><td>D</td></tr><tr><td>Sorghum vulgare ソルガム</td><td>A</td><td>+</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>Lepidium sativum コンヨウソウ</td><td>A</td><td>+</td><td>B</td><td>D</td></tr><tr><td>Lactuca sativa レタス</td><td>B</td><td>+</td><td>D</td><td>D</td></tr></tbody></table>	植物	1	10	100	1000	Sinapis alba シロウガラシ	+	A	B	D	Brassica napus マスタード	A	+	A	D	Brassica rapa カブラ	+	+	C	D	Brassica chinensis チンゲンサイ	B	+	C	D	Raphnus sativas ハツカダイコン	+	+	+	D	Vicia sativa ヤハス'エンドウ	B	B	C	D	Phaseolus aureus ブントウ	B	B	C	D	Trifolium pratense アカツメクサ	A	B	D	D	Trigonella meliotuscoerulea コロハ	A	B	C	D	Lolium perenne ホソムギ	B	+	+	D	Avena sativa カラスムギ	+	+	+	D	Triticum aestivum コムギ	+	+/-	+	D	Sorghum vulgare ソルガム	A	+	C	D	Lepidium sativum コンヨウソウ	A	+	B	D	Lactuca sativa レタス	B	+	D	D
植物	1	10	100	1000																																																																													
Sinapis alba シロウガラシ	+	A	B	D																																																																													
Brassica napus マスタード	A	+	A	D																																																																													
Brassica rapa カブラ	+	+	C	D																																																																													
Brassica chinensis チンゲンサイ	B	+	C	D																																																																													
Raphnus sativas ハツカダイコン	+	+	+	D																																																																													
Vicia sativa ヤハス'エンドウ	B	B	C	D																																																																													
Phaseolus aureus ブントウ	B	B	C	D																																																																													
Trifolium pratense アカツメクサ	A	B	D	D																																																																													
Trigonella meliotuscoerulea コロハ	A	B	C	D																																																																													
Lolium perenne ホソムギ	B	+	+	D																																																																													
Avena sativa カラスムギ	+	+	+	D																																																																													
Triticum aestivum コムギ	+	+/-	+	D																																																																													
Sorghum vulgare ソルガム	A	+	C	D																																																																													
Lepidium sativum コンヨウソウ	A	+	B	D																																																																													
Lactuca sativa レタス	B	+	D	D																																																																													
注釈	該当せず																																																																																
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり																																																																																
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ																																																																																
出典	化学物質の初期リスク評価書																																																																																
引用文献																																																																																	
備考																																																																																	

B. 土壌生物への毒性

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
試験の種類	その他
GLP	不明
試験を行った年	1984
種	<i>Eisenia foetida</i> (貧毛類、シマミミズ)
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
エンドポイント	28日間LC50
暴露期間	28日間
試験条件	不明
結果	
毒性値	28日間LC50:3550mg/kg乾土
注釈	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
試験の種類	その他
GLP	不明
試験を行った年	1985
種	<i>Eisenia foetida</i> (貧毛類、シマミミズ)
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
エンドポイント	28日間LC50
暴露期間	28日間
試験条件	不明
結果	
毒性値	28日間LC50:>1000mg/kg乾土
注釈	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea
同一性	62-56-6
方法	該当せず
試験の種類	その他
GLP	不明
試験を行った年	1984
種	<i>Meloidogyne javanica</i> (線虫類、ジャワネコフセンチュウ)
試験物質の分析の有無	なし
試験物質の分析方法	該当せず
エンドポイント	成虫化率
暴露期間	96時間
試験条件	濃度: 4-46mg/L
結果	
毒性値	4週間後の成虫化率: 0 mg/L (対照): 90% 6 mg/L: 50-80% 12 mg/L以上: 10-30% 12mg/L以上では根瘤組織は細胞質のない多核細胞がわずかに発達 このセンチュウを96時間、100 mg/Lまでのチオ尿素溶液に漬け、その後トマト根部(チオ尿素処理なし)を含んだ培地に移した場合、死亡率の増加無し、チオ尿素はトマト根に取り込まれた後殺線虫作用を示すと結論
注釈	該当せず
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献	
備考	

試験物質	thiourea			
同一性	62-56-6			
方法	該当せず			
試験の種類	その他			
GLP	不明			
試験を行った年	1991			
種	<i>Dysdercus similis</i> （昆虫類、ホシカメムシの一種）			
試験物質の分析の有無	なし			
試験物質の分析方法	該当せず			
エンドポイント	卵死亡率、ふ化率、成虫の生残率			
暴露期間	不明			
試験条件	卵、幼虫、擬蛹、成虫への局所投与(成虫には混餌投与併用)			
結果				
毒性値	幼虫(5齢)から変態した成虫に形態的な奇形(脚、腹部、翅) 別実験として0.002mg/Lを投与した3, 5, 7日齢成虫に行動の変化及び繁殖性の低下(卵巣萎縮)がみられ2日後に死亡 0.002mg/Lを成虫化後3-7日に投与し、その後対照群と同条件の飼育で一部の個体は8日までに卵巣を含め正常に回復			
	濃度 (mg/L)	卵死亡率 (%)	ふ化率 (%)	生残成虫 (%)
	0	4	95	ca. 92
	0.005	14-26	80	75
	0.01	20-26	70	57
	0.025	30-42	50	40
	0.03	46-54	30	20
	0.04	56-64	20	10
	0.05	70-90	0	0
	注釈	該当せず		
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり			
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ			
出典	化学物質の初期リスク評価書			
引用文献				
備考				

C. 他の非哺乳類陸生種(鳥類を含む)への毒性

4-6-1底生生物への毒性

4-7 生物学的影響モニタリング(食物連鎖による蓄積を含む)

4-8 生体内物質変換と動態

4-9 追加情報

項目名 (同一の試験項目について複数の試験がある場合、当該項目行をコピー追加してください。)	データ入力欄
	黄色＝必須項目
	青＝任意項目
	紫＝一部の物質で必須項目

5-1 トキシコキネティクス、代謝、分布
TOXICOKINETICS, METABOLISM, and DISTRIBUTION

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	in vivo
GLP適合	いいえ
試験をおこなった年	1945
方法の概略	ヒトに200 mg/kgのチオ尿素を経口投与し、血中濃度および尿中濃度を測定
動物種	ヒト
試験動物:系統	該当せず
性別	不明
細胞株	該当せず
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	経口投与
溶媒(賦剤)	不明
投与量	200mg/kg
統計手法	不明
実際に投与された量	該当せず
排泄経路	不明
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	不明
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	血中濃度:30分後に最高になり、48時間後には血中から検出されない。 尿中濃度:尿中への排出は30分後に始まり、48時間後には尿には検出されなかった。
結論	
結論	200mg/kgの経口投与により血中濃度は30分後に最高になり、48時間後には血中から検出されない。尿中への排出は30分後に始まり、48時間後には尿には検出されない。
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	in vivo
GLP適合	いいえ
試験をおこなった年	1950
方法の概略	ラットに ³⁵ S-チオ尿素をラットの腹腔内投与し、尿への排出を調べた。
動物種	ラット
試験動物:系統	不明
性別	不明
細胞株	該当せず
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	腹腔内投与
溶媒(賦剤)	不明
投与量	不明
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	尿
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	無機硫酸、硫酸エーテル体
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	48時間以内に投与量の98%が尿中に検出され、クロマトグラフィーから、その大部分は未変化体のチオ尿素であり、残りは少量の無機硫酸(6.2%)と硫酸エーテル体(5.9%)であった。
結論	

結論	腹腔内投与48時間以内に投与量の98%が尿中に検出され、その大部分は未変化体のチオ尿素であり、残りは少量の無機硫酸と硫酸エーテル体。
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	in vivo
GLP適合	不明
試験をおこなった年	1980
方法の概略	ウサギに2.0 mg/kgの用量で水に溶解したチオ尿素およびチオ尿素の結晶を経皮投与し、尿からの排出を調べた。
動物種	ウサギ
試験動物:系統	不明
性別	不明
細胞株	該当せず
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	経皮投与
溶媒(賦剤)	水
投与量	2.0 mg/kg
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	不明
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	不明
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	2.0 mg/kgの用量で水に溶解して投与した場合、投与量の4%は尿中に検出されたが、結晶を投与した場合、尿中からの検出率は0.1% であった
結論	
結論	不明
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	in vivo
GLP適合	いいえ
試験をおこなった年	1973
方法の概略	妊娠後期のNMRIマウスに ¹⁴ C-チオ尿素0.05 mgを静脈内投与し、全身オートラジオグラフィーにより体内分布を調べた。
動物種	マウス
試験動物:系統	NMRI
性別	F
細胞株	該当せず
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	静脈内投与
溶媒(賦剤)	不明
投与量	0.05 mg/boby
統計手法	不明
実際に投与された量	該当せず
排泄経路	不明
採取体液	該当せず
採取組織	該当せず
代謝産物	不明
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	他の組織に比べ甲状腺への残留時間が長く4日間以上であった。甲状腺以外に大動脈・大静脈血管壁、副腎皮質、乳腺、肝臓、肺、腎臓に放射能の増加がみられた。胎児組織にも分布した。
結論	
結論	他の組織に比べ甲状腺への残留時間が長い。胎児組織にも分布。
信頼性	2 制限付きで信頼性あり

信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	in vivo
GLP適合	いいえ
試験をおこなった年	1963
方法の概略	不明
動物種	ラット
試験動物:系統	不明
性別	F
細胞株	該当せず
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	不明
溶媒(賦形剤)	不明
投与量	不明
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	不明
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	不明
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	³⁵ S-チオ尿素は、ラットの胎盤を容易に通過し、胎児の甲状腺/血清濃度比率は妊娠17日には1以上に上昇し、20日まで増加が確認された。
結論	
結論	不明
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	in vivo
GLP適合	不明
試験をおこなった年	1982
方法の概略	ラットに ¹⁴ C-チオ尿素の0.16 mg/kg又は160 mg/kgを静脈内投与
動物種	ラット
試験動物:系統	不明
性別	不明
細胞株	該当せず
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	静脈内投与
溶媒(賦形剤)	不明
投与量	0.16 mg/kg又は160 mg/kg
統計手法	不明
実際に投与された量	該当せず
排泄経路	不明
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	不明
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	¹⁴ C-チオ尿素はタンパク質やペプチドのような高分子に共有結合することが確認された。その後、チオ尿素が血漿から消失する時間として、低用量では第Ⅱ(β)相半減期は0.69時間であったのに対し、高用量では大きく遅れ、第Ⅱ(β)相半減期は7時間を必要とした。低用量での静脈内投与60分後には非常に高い放射能活性が、肺、胸腺、ハーダー腺にみられたが、高用量では放射能活性は殆ど均一に全身にみられた。
結論	
結論	血漿消失半減期:0.16 mg/kg静脈内投与で第Ⅱ(β)相半減期は0.69時間、160 mg/kg静脈内投与で7時間
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書

引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	in vivo
GLP適合	不明
試験をおこなった年	1983
方法の概略	生後1日、1、3、8週齢の各成長段階のマウスを用い、チオ尿素の静脈内投与後の全血中濃度の測定及び全身オートラジオグラフィを行い、成長に伴うチオ尿素と高分子との共有結合からの脱着の変化を調べた。
動物種	マウス
試験動物:系統	不明
性別	不明
細胞株	該当せず
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	静脈内投与
溶媒(賦剤)	不明
投与量	不明
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	不明
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	不明
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	生後1日及び1週齢のマウスは、3及び8週齢のマウスに比べ全身からのクリアランスは非常に遅く、腎臓によるクリアランスが遅いのと一致した。生後1日及び1週齢のマウスに ¹⁴ C-チオ尿素を静脈内投与し60分後のオートラジオグラフィは全身に均一な分布を示したが、3週及び8週齢のマウスでは肝臓と肺に放射能活性が強く、局在した。肝臓及び肺抽出物を定量しチオ尿素と共有結合する肝臓と肺の高分子(タンパク質)量に齢による差があることが確認され、肺の毒性との関連が示唆された。
結論	
結論	チオ尿素と共有結合する肝臓と肺の高分子(タンパク質)量に齢による差があることが確認された。
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	in vivo
GLP適合	いいえ
試験をおこなった年	1950
方法の概略	³⁵ S-チオ尿素の投与によるオートラジオグラフィ
動物種	不明
試験動物:系統	不明
性別	不明
細胞株	該当せず
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	不明
溶媒(賦剤)	不明
投与量	不明
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	不明
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	不明
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	甲状腺に選択的、継続的な放射能活性がみられた。
結論	
結論	不明
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	in vivo
GLP適合	いいえ
試験をおこなった年	1957
方法の概略	³⁵ S-チオ尿素をラットに腹腔内投与
動物種	ラット
試験動物:系統	不明
性別	不明
細胞株	該当せず
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	腹腔内投与
溶媒(賦剤)	不明
投与量	不明
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	不明
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	不明
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	投与量の1.95%のみがチオ尿素として甲状腺に分布したが、甲状腺の ³⁵ Sの大部分は硫酸体(56%)またはタンパク質結合体(13%)であった。
結論	
結論	不明
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験形態	in vivo
GLP適合	いいえ
試験をおこなった年	1961
方法の概略	³⁵ S-チオ尿素をラットに腹腔内投与
動物種	ラット
試験動物:系統	不明
性別	不明
細胞株	該当せず
年齢	不明
体重	不明
試験動物数	不明
曝露経路	腹腔内投与
溶媒(賦剤)	不明
投与量	不明
統計手法	不明
実際に投与された量	不明
排泄経路	不明
採取体液	不明
採取組織	不明
代謝産物	不明
代謝産物 CAS No.	不明
結果	
試験結果	血清中では ³⁵ Sの75%はチオ尿素で、15%は硫酸体であった。
結論	
結論	不明
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

5-2 急性毒性

- A. 急性経口毒性
- B. 急性吸入毒性

C. 急性経皮毒性

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Mouse
性別	不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
	不明
投与経路	強制経口投与
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明
その他	不明
結論	
LD50値又はLC50値	LD50: 1000mg/kg
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1945
試験系(種／系統)	Rat
	不明
性別	不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
	不明
投与経路	強制経口投与
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明
その他	LD50値の差は系統差によるものである
結論	
LD50値又はLC50値	LD50: 125-1830mg/kg
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	

方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1940
試験系(種／系統)	Rabbit
性別	不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
	不明
投与経路	強制経口投与
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不明
剖検所見	不明
その他	不明
結論	
LD50値又はLC50値	LD50: 10000mg/kg
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	不明
試験を行った年	1979
試験系(種／系統)	Rat
性別	不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
	不明
投与経路	エアロゾル吸入
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	ミスト(10%溶液)
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不穏状態、動作の緩慢、呼吸器への刺激
剖検所見	不明
その他	不明
結論	
LD50値又はLC50値	LC50:>195mg/m ³
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1977
試験系(種／系統)	Rat
性別	不明

投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	粉体吸入
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	ダスト(粒子径0.8-4.7μ m)
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	不穏状態、動作の緩慢、呼吸器への刺激
剖検所見	不明
その他	不明
結論	
LD50値又はLC50値	LC50:>170mg/m ³
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 不明
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1978
試験系(種／系統)	Rabbit NZWウサギ
性別	不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	経皮
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	中等度の発赤
剖検所見	不明
その他	不明
結論	
LD50値又はLC50値	LD50:>2800mg/kg
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等	不明
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

D. 急性毒性(その他の投与経路)

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	該当せず
GLP適合	不明
試験を行った年	不明
試験系(種／系統)	Rat 不明
性別	不明
投与量	10～500mg/kg
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	腹腔内

観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
各用量群での死亡数	不明
臨床所見	死亡例で肺の浮腫、生存例で胸水
剖検所見	不明
その他	不明
結論	
毒性値	LC50:4-1、340mg/kg
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

5-3 腐食性／刺激性

A. 皮膚刺激／腐食

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
pH	不明
方法	
方法／ガイドライン	該当せず
GLP適合	不明
試験を行った年	1983
試験系(種／系統)	Rabbit
性別	不明
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	溶媒無し
投与経路	経皮(有傷皮膚および無傷皮膚)
観察期間(日)	24時間適用
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
一次刺激スコア	不明
皮膚反応等	中等度から重度の発赤と軽度の浮腫がみられた
その他	不明
結論	
皮膚刺激性	あり
皮膚腐食性	なし
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
pH	不明
方法	
方法／ガイドライン	該当せず
GLP適合	不明
試験を行った年	1981
試験系(種／系統)	Rabbit
性別	不明
投与量	0.5g
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	溶媒無し
投与経路	経皮
観察期間(日)	4時間適用
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
一次刺激スコア	不明
皮膚反応等	皮膚の反応はみられなかった
その他	不明
結論	
皮膚刺激性	なし
皮膚腐食性	なし
注釈	該当せず

信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

B. 眼刺激／腐食

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	該当せず
試験のタイプ	in vivo
GLP適合	不明
試験を行った年	1981
試験系(種／系統)	Rabbit
	不明
性別	不明
投与量	100mg
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	溶媒無し
投与経路	結膜に投与
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
腐食	なし
刺激点数: 角膜	不明
刺激点数: 虹彩	不明
刺激点数: 結膜	不明
その他	結膜の軽度の発赤と浮腫がみられた
結論	
眼刺激性	あり
眼腐食性	なし
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	該当せず
試験のタイプ	in vivo
GLP適合	不明
試験を行った年	1983
試験系(種／系統)	Rabbit
	不明
性別	不明
投与量	10%溶液
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください
	不明
投与経路	点眼: 10%溶液を単回投与
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
腐食	なし
刺激点数: 角膜	不明
刺激点数: 虹彩	不明
刺激点数: 結膜	不明
その他	反応はみられなかった
結論	
眼刺激性	なし
眼腐食性	なし
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

5-4 皮膚感作

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明

注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください マキシマイゼーション法
試験のタイプ	in vivo
GLP適合	不明
試験を行った年	1981
試験系(種／系統)	その他 モルモット
性別	選択してください
投与量	不明
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	不明
観察期間(日)	不明
その他の試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
試験結果	不明
その他	不明
結論	
感受性	陰性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

5-5 反復投与毒性

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 2年間混餌投与実験
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1948
試験系(種／系統)	Rat Osborne-Mendel
性別	不明
投与量	0(対照),7,17.5,35,70,175,350,700 mg/kg/日 0(対照),100,250,1000,2500,5000,10000ppm
各用量群(性別)の動物数	18匹/群(性別不明)
溶媒(担体)	溶媒無し
投与経路	混餌投与
対照群に対する処理	不明
投与期間(日)(OECD422等で、投与期間のデータ等がある場合、最長投与期間)	730
投与頻度	不明
回復期間(日)	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	2500ppm(175mg/kg/日)以上:投与開始第1週から体重増加抑制
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	2,500 ppm以上:暴露開始17ヶ月以前に全例死亡
剖検所見(発生率、重篤度)	2,500 ppm以上:脾臓の萎縮、鬱血、腎臓の退色
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	500 ppm以下:影響なし 1,000 ppm以上:甲状腺濾胞の過形成(1,000 ppmで中等度、10,000 ppmで重度) 2,500 ppm以上:ヘモジリン沈着、腎尿細管の石灰沈着、骨成長遅延、骨髓細胞低形成、精子低形成又は無形成、肝臓脂肪沈着
実際に摂取された量	不明

用量反応性	500 ppm以下：影響なし 1,000 ppm以上：甲状腺濾胞の過形成（1,000 ppmで中等度、10,000 ppmで重度） 2,500 ppm以上：体重増加抑制（投与開始第1週から）、脾臓の萎縮、鬱血、腎臓の退色、ヘモジデリン沈着、腎尿管の石灰沈着、骨成長遅延、骨髓細胞低形成、精子低形成又は無形成、肝臓脂肪沈着
注釈	該当せず
結論	
NOAEL (NOEL)	NOAEL: 500ppm (35mg/kg/日)
LOAEL (LOEL)	LOAEL: 1000ppm (70mg/kg/日)
NOAEL/LOAELの推定根拠	1000ppm群まで甲状腺濾胞の過形成がみられなかったことによる
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等	不明
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書（化学物質の初期リスク評価書）からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 13週間飲水投与試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1987
試験系（種／系統）	Rat SD
性別	MF
投与量	0、0.02、0.1、0.5、2.5ppm
各用量群（性別）の動物数	10匹/群/性
溶媒（担体）	水
投与経路	飲水投与
対照群に対する処理	不明
投与期間（日）（OECD422等で、投与期間のデータ等がある場合、最長投与期間）	91
投与頻度	不明
回復期間（日）	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見（重篤度、所見の発現時期と持続時間）	変化なし
眼科学的所見（発生率、重篤度）	不明
血液学的所見（発生率、重篤度）	不明
血液生化学的所見（発生率、重篤度）	不明
尿検査所見（発生率、重篤度）	不明
死亡数（率）、死亡時間	該当せず
剖検所見（発生率、重篤度）	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見（発生率、重篤度）	変化なし
実際に摂取された量	不明
用量反応性	いずれの用量でも、投与に関連した臨床的及び組織病理学的変化なし
注釈	該当せず
結論	
NOAEL (NOEL)	NOAEL: 2.5ppm以上（雄: 1.73mg/kg/日、雌: 2.65mg/kg/日相当）
LOAEL (LOEL)	該当せず
NOAEL/LOAELの推定根拠	最高投与濃度2.5 ppm（雄: 1.73 mg/kg、雌: 2.65 mg/kg）で雌雄いずれにも臨床的及び組織病理学的変化はみられなかったことによる
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等	該当せず
注釈	該当せず
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書（化学物質の初期リスク評価書）からのデータであるものの、本報告は非公開のため、原著の確認はしていないと記載されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6

純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 2週間強制経口投与試験
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1950
試験系(種／系統)	Rat 不明
性別	M
投与量	660±60mg/kg/日
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	不明
投与経路	強制経口投与
対照群に対する処理	コントロール群無し
投与期間(日)(OECD422等で、投与期間のデータ等がある場合、最長投与期間)	14
投与頻度	不明
回復期間(日)	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	体重増加抑制(50%)
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	該当せず
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	不明
実際に摂取された量	該当せず
用量反応性	該当せず
注釈	該当せず
結論	
NOAEL(NOEL)	該当せず
LOAEL(LOEL)	該当せず
NOAEL/LOAELの推定根拠	該当せず
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等	該当せず
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	対照群が設定されておらず、試験内容の詳細な記載がないため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	チオ尿素
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 10日間強制経口投与試験
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1943
試験系(種／系統)	Rat 不明
性別	F
投与量	12、131mg/kg/日
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	不明
投与経路	強制経口投与
対照群に対する処理	コントロール群無し
投与期間(日)(OECD422等で、投与期間のデータ等がある場合、最長投与期間)	10
投与頻度	不明
回復期間(日)	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	

体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見（重篤度、所見の発現時期と持続時間）	不明
眼科学的所見（発生率、重篤度）	不明
血液学的所見（発生率、重篤度）	不明
血液生化学的所見（発生率、重篤度）	不明
尿検査所見（発生率、重篤度）	不明
死亡数（率）、死亡時間	該当せず
剖検所見（発生率、重篤度）	12 mg/kg: 変化なし 131 mg/kg: 甲状腺の肥大
臓器重量	不明
病理組織学的所見（発生率、重篤度）	12 mg/kg: 変化なし 131 mg/kg: 甲状腺の肥大
実際に摂取された量	該当せず
用量反応性	12 mg/kg: 変化なし 131 mg/kg: 甲状腺の肥大
注釈	該当せず
結論	
NOAEL (NOEL)	該当せず
LOAEL (LOEL)	該当せず
NOAEL/LOAELの推定根拠	該当せず
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等	該当せず
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	対照群が設定されておらず、試験内容の詳細な記載がないため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献（元文献）	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 飲水投与試験（生涯（最高3年））
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1945
試験系（種／系統）	Rat 不明
性別	不明
投与量	1.72、6.88、27.5mg/kg/日
各用量群（性別）の動物数	不明
溶媒（担体）	不明
投与経路	飲水投与
対照群に対する処理	コントロール群無し
投与期間（日）（OECD422等で、投与期間のデータ等がある場合、最長投与期間）	1095
投与頻度	不明
回復期間（日）	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	27.5 mg/kg/日: 体重増加抑制
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見（重篤度、所見の発現時期と持続時間）	不明
眼科学的所見（発生率、重篤度）	不明
血液学的所見（発生率、重篤度）	不明
血液生化学的所見（発生率、重篤度）	不明
尿検査所見（発生率、重篤度）	不明
死亡数（率）、死亡時間	該当せず
剖検所見（発生率、重篤度）	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見（発生率、重篤度）	27.5 mg/kg/日: 甲状腺の肥大
実際に摂取された量	不明
用量反応性	不明
注釈	該当せず
結論	
NOAEL (NOEL)	NOAEL: 6.88 mg/kg/日
LOAEL (LOEL)	LOAEL: 27.5 mg/kg/日
NOAEL/LOAELの推定根拠	27.5 mg/kg/日ではみられた体重増加抑制、甲状腺の肥大が6.88 mg/kg/日ではみられなかったことによる
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等	不明
注釈	該当せず

信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	対照群が設定されておらず、試験内容の詳細な記載がないため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

5-6 *in vitro* 遺伝毒性

A. 遺伝子突然変異

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 復帰突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1988
細胞株又は検定菌	S. typhimurium TA 100,1535,98,97
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	用量:10000 µ g/plate
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	該当せず
代謝活性なしの場合	該当せず
変異原性	
代謝活性ありの場合	陰性
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	該当せず
結論	
遺伝子突然変異	陰性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 前進突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1984
細胞株又は検定菌	<i>Escherichia coli</i> RK
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	用量:10000 µ g/mL
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	該当せず
代謝活性なしの場合	該当せず
変異原性	
代謝活性ありの場合	陰性
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	該当せず
結論	
遺伝子突然変異	陰性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください コウジ菌を用いた染色体不分離に関する前進突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1986
細胞株又は検定菌	選択してください <i>Aspergillus nidulans</i>
代謝活性化(S9)の有無	無
試験条件	用量:10000 µ g/mL

結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	該当せず
代謝活性なしの場合	該当せず
変異原性	
代謝活性ありの場合	該当せず
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	該当せず
結論	
遺伝子突然変異	陰性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください ほ乳動物細胞を用いた遺伝子突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1985
細胞株又は検定菌	チャイニーズハムスターV79細胞HGPRT座
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	用量:760 µ g/mL
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	不明
代謝活性なしの場合	不明
変異原性	
代謝活性ありの場合	弱い陽性
代謝活性なしの場合	陽性
注釈	用量依存性なし
結論	
遺伝子突然変異	陽性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください ほ乳動物細胞を用いた遺伝子突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1988
細胞株又は検定菌	マウスリンフォーマ細胞L5178Y Tk座
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	用量:10000 µ g/mL
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	不明
代謝活性なしの場合	不明
変異原性	
代謝活性ありの場合	陰性
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	該当せず
結論	
遺伝子突然変異	陰性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください

	ほ乳動物細胞を用いた遺伝子突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1988
細胞株又は検定菌	マウスリンフォーマ細胞L5178Y Tk 座
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	用量: 5000 μ g/mL
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	不明
代謝活性なしの場合	不明
変異原性	
代謝活性ありの場合	弱い陽性
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	用量依存性なし
結論	
遺伝子突然変異	陰性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください ほ乳動物細胞を用いた遺伝子突然変異試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1988
細胞株又は検定菌	マウスリンフォーマ細胞L5178Y Tk 座
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	用量: 1370 μ g/mL
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	不明
代謝活性なしの場合	不明
変異原性	
代謝活性ありの場合	弱い陽性
代謝活性なしの場合	弱い陽性
注釈	該当せず
結論	
遺伝子突然変異	陽性
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の解釈に確実性を欠く
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください ネズミチフス菌を用いたumu(SOS反応)試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1987
細胞株又は検定菌	Salmonella tyhimurium TA 1535/pSK1002
代謝活性化(S9)の有無	有
試験条件	用量: 1670 μ g/mL
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	該当せず
代謝活性なしの場合	該当せず
変異原性	
代謝活性ありの場合	陰性
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	該当せず
結論	
遺伝子突然変異	陰性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	

備考	
----	--

B. 染色体異常

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	酵母菌を用いた染色体内遺伝子組み換え試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1989
細胞株	選択してください <i>Saccharomyces cerevisiae</i>
代謝活性化(S9)の有無	無
試験条件	用量: 2000, 3000 µ g/mL
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	該当せず
代謝活性なしの場合	該当せず
染色体異常	
代謝活性ありの場合	該当せず
代謝活性なしの場合	陽性
注釈	細胞毒性の発現する高濃度での試験結果
結論	
染色体異常	陽性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	ほ乳動物細胞を用いた染色体異常試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1988
細胞株	選択してください チャイニーズハムスターCHL細胞
代謝活性化(S9)の有無	無
試験条件	用量: 2000 µ g/L
結果	
細胞毒性	
代謝活性ありの場合	該当せず
代謝活性なしの場合	不明
染色体異常	
代謝活性ありの場合	該当せず
代謝活性なしの場合	陰性
注釈	該当せず
結論	
染色体異常	陰性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

5-7 in vivo 遺伝毒性

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 宿主(マウス)経由復帰突然変異
試験のタイプ	host-mediated assay
GLP適合	不明
試験を行った年	1979
試験系(種／系統)	MOUSE(系統不明) <i>Salmonella typhimurium</i> TA1530,1538
性別	不明
投与量	125mg/kg
投与経路	選択してください 腹腔内投与
試験期間	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	

性別及び投与量別の結果	不明
遺伝毒性効果	弱い陽性
NOAEL (NOEL)	不明
LOAEL (LOEL)	不明
統計的結果	不明
注釈	不明
結論	
<i>in vivo</i> 遺伝毒性	陽性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 宿主(マウス)経由復帰突然変異
試験のタイプ	host-mediated assay
GLP適合	不明
試験を行った年	1979
試験系(種／系統)	MOUSE(系統不明) <i>Saccharomyces cerevisiae</i>
性別	選択してください
投与量	1000mg/kg
投与経路	選択してください 腹腔内投与
試験期間	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
性別及び投与量別の結果	不明
遺伝毒性効果	陰性
NOAEL (NOEL)	不明
LOAEL (LOEL)	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
<i>in vivo</i> 遺伝毒性	陰性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 体細胞突然変異
試験のタイプ	GENE MUTATION:Drosophila SLRL test
GLP適合	不明
試験を行った年	1991
試験系(種／系統)	ショウジョウバエ
性別	不明
投与量	7.6μ g/mL餌
投与経路	選択してください 混餌
試験期間	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
性別及び投与量別の結果	不明
遺伝毒性効果	陽性
NOAEL (NOEL)	不明
LOAEL (LOEL)	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
<i>in vivo</i> 遺伝毒性	陽性

注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 体細胞突然変異
試験のタイプ	GENE MUTATION:Drosophila SLRL test
GLP適合	不明
試験を行った年	1993
試験系(種／系統)	ショウジョウバエ <i>w/w⁺</i> 座
性別	不明
投与量	38μ g/mL餌
投与経路	選択してください 混餌
試験期間	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
性別及び投与量別の結果	不明
遺伝毒性効果	弱い陽性
NOAEL (NOEL)	不明
LOAEL (LOEL)	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
<i>in vivo</i> 遺伝毒性	陽性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 体細胞突然変異
試験のタイプ	GENE MUTATION:Drosophila SLRL test
GLP適合	不明
試験を行った年	1994
試験系(種／系統)	ショウジョウバエ <i>white-ivory</i> system
性別	不明
投与量	152μ g/mL餌
投与経路	選択してください 混餌
試験期間	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
性別及び投与量別の結果	不明
遺伝毒性効果	不確定
NOAEL (NOEL)	不明
LOAEL (LOEL)	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
<i>in vivo</i> 遺伝毒性	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の解釈に確実性を欠く
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	選択してください 小核試験
試験のタイプ	CHROMOSOME ABERRATION: micronucleus assay
GLP適合	不明
試験を行った年	1979
試験系(種／系統)	ラット(系統不明)
性別	不明
投与量	350mg/kg(LD50の20%)
投与経路	強制経口投与
試験期間	不明
試験条件	2回投与(24時間後)
統計学的処理	不明
結果	
性別及び投与量別の結果	不明
遺伝毒性効果	陰性
NOEL (NOEL)	不明
LOAEL (LOEL)	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
<i>in vivo</i> 遺伝毒性	陰性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

5-8 発がん性

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	マウスを用いた発がん性試験(最長81週間)
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1947
試験系(種／系統)	Mouse A、C57、I
性別	MF
投与量	0、2%
各用量群(性別)の動物数	不明
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	混餌投与
処理頻度	不明
対照群と処理	不明
試験条件	投与開始時の月齢:1〜3月齢 体重あたりの摂取量不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	81週間生存率:A系-58%、C57系-66%、I系-71%
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	40日以後: 甲状腺過形成 150日以後: 甲状腺のう胞性、結節性病変の発現(系統ごとの発生率不明)
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	

実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	マウスを用いた発がん性試験
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1948
試験系(種／系統)	Mouse CH3
性別	F
投与量	投与開始後13週まで濃度: 0.25% 以後0.375%
各用量群(性別)の動物数	21匹/群
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	混餌投与
処理頻度	不明
対照群と処理	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	甲状腺過形成 腫瘍発現なし
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	マウスを用いた発がん性試験(7か月)
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1952
試験系(種／系統)	Mouse CH3
性別	MF
投与量	0.3%
各用量群(性別)の動物数	雌雄25匹/群
溶媒(担体)	選択してください
投与経路	混餌投与

処理頻度	不明
対照群と処理	不明
試験条件	対照なし 体重あたりの摂取量不明
統計学的処理	該当せず
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	甲状腺過形成
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	マウスを用いた発がん性試験(4-6か月)
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1949
試験系(種／系統)	Mouse CH3
性別	F
投与量	0、0.1～0.2%
各用量群(性別)の動物数	49匹/群(対照:33匹)
溶媒(担体)	選択してください 水
投与経路	飲水投与
処理頻度	不明
対照群と処理	不明
試験条件	体重あたりの摂取量不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	甲状腺過形成なし(1/20) 乳腺の腫瘍 0%:28%、0.1～0.2%:54%
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず

信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	マウスを用いた発がん性試験(平均10か月)
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1949
試験系(種／系統)	Mouse R3(乳腺腫瘍自然高発生系)
性別	F
投与量	0、0.2～0.5%
各用量群(性別)の動物数	11匹/群(対照:7匹)
溶媒(担体)	選択してください 水
投与経路	飲水投与
処理頻度	不明
対照群と処理	不明
試験条件	体重あたりの摂取量不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	甲状腺の過形成
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	マウスを用いた発がん性試験(6か月)
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1969
試験系(種／系統)	Mouse ICR,Swiss
性別	F
投与量	2500mg/kg/日
各用量群(性別)の動物数	11匹/群(対照:7匹)
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	皮下投与
処理頻度	不明
対照群と処理	不明

試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	肺腺がん:5% (対照2-14%)
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	ラットを用いた発がん性試験(12-24か月)
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1947
試験系(種／系統)	Rat ノルウェー系
性別	MF
投与量	濃度: 0.25%
各用量群(性別)の動物数	雌雄20匹/群 選択してください
溶媒(担体)	水
投与経路	飲水投与
処理頻度	不明
対照群と処理	不明
試験条件	体重あたりの摂取量不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	12か月以上の生存率: 雄 90% 雌 80%
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	雄9例の観察(16-23.5か月) 甲状腺がん: 4例 甲状腺腫: 7例 甲状腺を含めた全体の腫瘍/がん: (腺腫4例, がん1例, 腺腫+がん2例, 腺腫+がん+胎児性腺腫1例) 雌8例の観察(12-23.5か月) 甲状腺腺腫6例 甲状腺を含めた全体の腫瘍/がん: (腺腫5例, 腺腫+がん1例, 腺腫+がん+胎児性腺腫2例)
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明

注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	ラットを用いた発がん性試験(12-22か月)
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1947
試験系(種／系統)	Rat Wistar
性別	M
投与量	濃度: 0.25%
各用量群(性別)の動物数	10匹/群
溶媒(担体)	選択してください 水
投与経路	飲水投与
処理頻度	不明
対照群と処理	不明
試験条件	体重あたりの摂取量不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	12か月以上の生存率: 80%
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	甲状腺ろ胞腫瘍: 雄 6/10例 甲状腺がん発現なし
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	ラットを用いた発がん性試験
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1954
試験系(種／系統)	Rat 白色
性別	MF
投与量	腹腔内投与: 10% (3-4mL/1匹) 経口(飲水投与): 0.2%
各用量群(性別)の動物数	雌雄12匹/群
溶媒(担体)	選択してください

	不明
投与経路	腹腔内投与: 3回/週、6か月間 経口(飲水投与): 15か月間
処理頻度	腹腔内投与: 3回/週 経口(飲水)投与: 不明
対照群と処理	不明
試験条件	体重あたりの摂取量不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	6週-8か月に6例死亡(被験物質投与の影響なし)
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	1年以後: 類表皮がん(耳、眼): 6例 臓がんは発生せず
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	ラットを用いた発がん性試験(13-26か月)
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1957
試験系(種／系統)	Rat 不明
性別	M
投与量	濃度: 0、0.02%
各用量群(性別)の動物数	19匹/群(対照12匹)
溶媒(担体)	水
投与経路	飲水投与
処理頻度	不明
対照群と処理	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	1匹: 鼻部腫瘍 6匹: 耳部腫瘍 6匹: 眼窩腫瘍 5匹: 耳/眼部腫瘍
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明

用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	ラットを用いた発がん性試験(12-23か月)
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1960
試験系(種／系統)	Rat Wister
性別	M
投与量	濃度: 0、0.2%
各用量群(性別)の動物数	9匹/群
溶媒(担体)	水
投与経路	飲水投与
処理頻度	不明
対照群と処理	不明
試験条件	体重あたりの摂取量不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	8匹: ジンバル腺(外耳道皮脂腺)又はマイボーム腺(眼瞼皮脂腺)の扁平上皮がん
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	ラットを用いた発がん性試験(24か月)
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1965
試験系(種／系統)	Rat Osborne-Mendel
性別	MF
投与量	濃度: 0、80ppm
各用量群(性別)の動物数	雌雄各60匹/群(対照100匹)

溶媒(担体)	不明
投与経路	混餌投与
処理頻度	不明
対照群と処理	不明
試験条件	体重あたりの摂取量不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	累積死亡率 雄:65%、雌:60%
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	腫瘍発生頻度の増加なし
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	ラットを用いた発がん性試験(26か月)
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1967
試験系(種／系統)	Rat Osborne-Mendel
性別	MF
投与量	濃度: 0、50ppm
各用量群(性別)の動物数	雌雄各30匹/群
溶媒(担体)	不明
投与経路	混餌投与
処理頻度	不明
対照群と処理	不明
試験条件	体重あたりの摂取量不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	腫瘍 対照:15例(詳細な検討なし)、50ppm:2例(悪性4例)
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	

実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	ラットを用いた発がん性試験(2年)
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1967
試験系(種／系統)	Rat Osborne-Mendel
性別	MF
投与量	濃度: 0、0.01、0.025、0.05、0.1、0.25、0.1、1%
各用量群(性別)の動物数	雌雄各18匹/群
溶媒(担体)	不明
投与経路	混餌投与
処理頻度	不明
対照群と処理	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	0.25%以上: 17か月以前に全例死亡(1例は肝腫瘍発現)
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	2年間生存投与群ラット(投与量不明): 肝細胞の腺腫: 14/29例 2年間生存対照群ラット(18例): 肝細胞腺腫なし(背景データ: 肝細胞腺腫発生率: 1%)
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	ラットを用いた発がん性試験(2年)
試験のタイプ	lifelong bioassay
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1948
試験系(種／系統)	Rat Osborne-Mendel
性別	不明
投与量	0、7、17.5、35、70、175、350、700mg/kg/日 0、100、250、500、1000、2500、5000、10000ppm
各用量群(性別)の動物数	18匹/群
溶媒(担体)	不明
投与経路	混餌投与

処理頻度	不明
対照群と処理	不明
試験条件	投与開始時の日齢:21日齢
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	2,500 ppm以上: 体重増加の抑制 (投与開始第1週から)
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見 (重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見 (発生率、重篤度)	不明
血液学的所見 (発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見 (発生率、重篤度)	不明
尿検査所見 (発生率、重篤度)	不明
死亡数 (率)、死亡時間	17か月以前に全例死亡
剖検所見 (発生率、重篤度)	2,500 ppm以上: 脾臓の萎縮、鬱血、腎臓の退色
臓器重量	不明
病理組織学的所見 (発生率、重篤度)	500 ppm以下: 甲状腺その他の組織に影響なし 1,000 ppm以上: 甲状腺濾胞の過形成(1,000ppmで中等度、10,000ppmで重度(甲状腺がん発生せず) 肝細胞腺腫 (14例/29: 2年間生存例) 対照群(2年間生存18例)に肝細胞腺腫発生せず。 2,500 ppm以上: ヘモジデリン沈着、腎尿細管の石灰沈着、骨成長遅延、骨髓細胞低形成、精子低形成又は無形成、脂肪沈着と胆管増生を伴う肝細胞過形成
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	500 ppm以下: 甲状腺その他の組織に影響なし 1,000 ppm以上: 甲状腺濾胞の過形成(1,000ppmで中等度、10,000ppmで重度(甲状腺がん発生せず) 肝細胞腺腫 (14例/29: 2年間生存例) 対照群(2年間生存18例)に肝細胞腺腫発生せず。 2,500 ppm以上: 体重増加の抑制 (投与開始第1週から)、脾臓の萎縮、鬱血、腎臓の退色、ヘモジデリン沈着、腎尿細管の石灰沈着、骨成長遅延、骨髓細胞低形成、精子低形成又は無形成、脂肪沈着と胆管増生を伴う肝細胞過形成
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	不明
注釈	該当せず
信頼性	3 信頼性なし
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、「現在の基準に合致せず、甲状腺への影響に関連した記載事項以外は評価には利用できない」と判断されているため
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	該当せず
試験のタイプ	initiation/promotion
GLP適合	不明
試験を行った年	1988
試験系(種／系統)	Rat Sprague-Dawley
性別	MF
投与量	チオ尿素: 200, 500 mg/kg ClophenA50: 10 mg/kg
各用量群(性別)の動物数	5匹
溶媒(担体)	選択してください チオ尿素: 水2mL ClophenA50: オリーブオイル2mL
投与経路	強制経口投与
処理頻度	チオ尿素: 連続3回/週 ClophenA50: 投与開始6日後から2回/週 × 11週間
対照群と処理	不明
試験条件	投与開始時の日齢: 21-26日齢
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見 (重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見 (発生率、重篤度)	不明
血液学的所見 (発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見 (発生率、重篤度)	不明
尿検査所見 (発生率、重篤度)	不明
死亡数 (率)、死亡時間	不明
剖検所見 (発生率、重篤度)	不明

臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	肝臓の前がん性病巣(ATPase 欠落巣) 数増加なし・面積増大なし
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	不明
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	イニシエーション作用なし
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	該当せず
試験のタイプ	initiation/promotion
GLP適合	不明
試験を行った年	1988
試験系(種／系統)	Rat Sprague-Dawley
性別	MF
投与量	イニシエーターとしてDEN(ニトロソジエチルアミン) 8 mg/kgを1回投与。その後、プロモーターとして0.2%チオ尿素:0.2%を51日間飲水投与。
各用量群(性別)の動物数	雌雄各4匹
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	飲水
処理頻度	DEN(ニトロソジエチルアミン):1回 チオ尿素:51日間
対照群と処理	不明
試験条件	投与開始時の日齢:21-26日齢
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	前がん性病巣(ATPase 欠落巣) 数減少、面積減少(70- 90%)
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	プロモーション作用なし
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	該当せず
試験のタイプ	initiation/promotion
GLP適合	不明
試験を行った年	1994
試験系(種／系統)	Rat Fischer 344

性別	M
投与量	イニシエーターとしてNBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル)アミン)2,000 mg/kgを皮下投与(単回)。その後、プロモーターとして0、0.2%チオ尿素をNBHPA投与1週間後から19週間投与。
各用量群(性別)の動物数	30匹/群
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	NBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル)アミン):皮下投与 チオ尿素:飲水または混餌投与
処理頻度	NBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル)アミン):単回 チオ尿素:不明
対照群と処理	不明
試験条件	投与開始時の週齢:5週齢
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	甲状腺ろ胞細胞の腺腫(4週以後発現): NBHPA +チオ尿素投与群5/20例、 NBHPA単独投与群0/20
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	プロモーション作用あり
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	該当せず
試験のタイプ	initiation/promotion
GLP適合	不明
試験を行った年	1994
試験系(種／系統)	Rat Fischer 344
性別	M
投与量	イニシエーターとしてNBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル)アミン)1500 mg/kgを皮下投与(単回)。その後、プロモーターとして0、0.05、0.1%チオ尿素をNBHPA投与1週間後から20週間の飲水または混餌投与。
各用量群(性別)の動物数	10または15匹/群(対照19匹/群)
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	NBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル)アミン):皮下投与 チオ尿素:飲水または混餌投与
処理頻度	NBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル)アミン):単回 チオ尿素:不明
対照群と処理	基礎飼料および水のみ投与
試験条件	投与開始時の週齢:5週齢
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明

尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	甲状腺ろ胞細胞の腺腫: NBHPA +0.05%チオ尿素投与群: 5/10例($p < 0.01$) NBHPA +0.1%チオ尿素投与群: 5/10例($p < 0.01$) 対照: 0/15例
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	不明
統計的結果	甲状腺ろ胞細胞の腺腫: $p < 0.01$
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	プロモーション作用あり
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	該当せず
試験のタイプ	initiation/promotion
GLP適合	不明
試験を行った年	1994
試験系(種／系統)	Rat Fischer 344
性別	M
投与量	イニシエーターとして、NBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル) アミン)2000 mg/kgを皮下投与(単回)。その後、プロモーターとして0、0.1%チオ尿素をNBHPA投与1週間後から20週間飲水または混餌投与。
各用量群(性別)の動物数	20または15匹/群(対照19匹/群)
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	NBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル) アミン): 皮下投与 チオ尿素: 飲水または混餌投与
処理頻度	NBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル) アミン): 単回 チオ尿素: 不明
対照群と処理	不明
試験条件	投与開始時の週齢: 6週齢
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	甲状腺ろ胞細胞の腺腫 NBHPA +チオ尿素投与群: 10/15例($p < 0.01$)、 NBHPA単独投与群: 0/20 肝細胞がんの発生なし
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	甲状腺ろ胞細胞の腺腫: $p < 0.01$
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	プロモーション作用あり
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
-------	----------

CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	該当せず
試験のタイプ	initiation/promotion
GLP適合	不明
試験を行った年	1996
試験系(種／系統)	Rat Fischer 344
性別	M
投与量	イニシエーターとしてNBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル)アミン)2800 mg/kgを皮下投与(単回)。その後、プロモーターとして0、0.1%チオ尿素をNBHPA投与1週間後から19週間飲水または混餌投与。
各用量群(性別)の動物数	15匹/群
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	NBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル)アミン):皮下投与 チオ尿素:飲水または混餌投与
処理頻度	NBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル)アミン):単回 チオ尿素:不明
対照群と処理	不明
試験条件	投与開始時の週齢:6週齢
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	甲状腺ろ胞細胞の腺腫 NBHPA+チオ尿素投与群: 10/15例(腺腫様増殖形態) 6/15例(充実性増殖形態) NBHPA単独投与群: 0/5
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	プロモーション作用あり
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	該当せず
試験のタイプ	initiation/promotion
GLP適合	不明
試験を行った年	1997
試験系(種／系統)	Rat Fischer 344
性別	M
投与量	イニシエーターとしてNBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル)アミン)2800 mg/kgを皮下投与(単回)。その後、プロモーターとして0、0.1%チオ尿素をNBHPA投与1週間後から10週間飲水または混餌投与。
各用量群(性別)の動物数	10匹/群
溶媒(担体)	選択してください 不明
投与経路	NBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル)アミン):皮下投与 チオ尿素:飲水または混餌投与
処理頻度	NBHPA(N-ニトロソ-ビス(2-ヒドロキシプロピル)アミン):単回 チオ尿素:不明
対照群と処理	基本飼料および水のみ投与

試験条件	投与開始時の週齢:6週齢
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
眼科学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	甲状腺ろ胞細胞の腺腫 NBHPA +チオ尿素投与群: 10/10例($p < 0.01$) NBHPA単独投与群: 1/10例
実際に摂取された量	不明
腫瘍発生までの時間	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	甲状腺ろ胞細胞の腺腫群: $p < 0.01$
注釈	該当せず
結論	
実験動物における発がん性の有無	プロモーション作用あり
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

5-9 生殖・発生毒性(受胎能と発生毒性を含む)

A. 受胎能

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	不明
試験のタイプ	その他
GLP適合	不明
試験を行った年	1987
試験系(種／系統)	その他 Sheep
性別	F
投与量	0, 50 mg/kg/day
各用量群(性別)の動物数	実験群: 子羊18匹(2.4,6ヶ月間投与各6匹)、若い羊18匹(2.4,6ヶ月間投与各6匹)、妊娠羊9匹(1.2,3ヶ月間投与各3匹) 対照群: 子羊9匹、若い羊9匹、妊娠羊3匹
溶媒(担体)	選択してください 水
投与経路	経口投与
試験期間	不明
交配前暴露期間	不明
試験条件	子羊(2~3ヶ月齢)および若い羊(8~10ヶ月齢)に2.4または6ヶ月間投与。妊娠羊(12~15ヶ月齢)に妊娠2ヶ月から3ヶ月間、妊娠3ヶ月から2ヶ月間または妊娠5ヶ月に1ヶ月間投与。
統計学的処理	不明
結果	
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	発育阻害、虚弱、食欲欠乏、体重減少、甲状腺肥大(妊娠羊にはみられず)が投与期間に応じてみられた
妊娠率(妊娠個体数/交配数)	不明
交尾前期間(交配までの日数及び交配までの性周期回数)	不明
妊娠期間(妊娠0日から起算)	不明
妊娠指数(生存胎仔数/着床痕数)	不明
哺乳所見	不明
性周期変動	子羊: 発情兆候みられず(対照群では複数匹に発情兆候あり) 若い羊: 投与1ヶ月目で発情兆候が複数匹でみられたが、その後実験期間終了まで発情兆候みられず(対照群では発情兆候あり)
精子所見	該当せず
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	血清中チロキシン量が投与期間に応じて低下
尿検査所見(発生率、重篤度)	不明
死亡数(率)、死亡時間	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明

着床数	不明
黄体数	不明
未熟卵胞数	不明
臓器重量	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	不明
実際に摂取された量	不明
用量反応性	不明
同腹仔数及び体重	不明
性比	不明
生存率(生後4日目生存仔数/総分娩仔数)	不明
離乳までの分娩後生存率	不明
新生仔所見(肉眼的な異常)	不明
生後発育及び発育率	不明
膈開口又は精巣下降(包皮分離)	不明
生殖器-肛門間距離などその他の観察事項	不明
臓器重量	不明
統計的結果	不明
注釈	妊娠羊：流産、死産、出生仔の虚弱または低体重、難産及び胎盤の停留がみられ、症状の程度は妊娠段階に依存していた
結論	
PIに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	50 mg/kg/day投与で血清中チロキシン量低下。 子羊あるいは若い羊への50 mg/kg/day投与で性的成熟阻害。
F1に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	妊娠羊への50 mg/kg/day投与で流産、死産、出生仔の虚弱または低体重、難産及び胎盤の停留
F2に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	該当せず
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の環境リスク評価 第3巻)からのデータ
出典	化学物質の環境リスク評価 第3巻
引用文献(元文献)	文献6
備考	

B. 発生毒性

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	催奇形性試験
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1976
試験系(種／系統)	Rat
性別	F
投与量	480mg/kg
各用量群(性別)の動物数	不明
投与経路	強制経口投与
試験期間	不明
交配前暴露期間	なし
試験条件	妊娠12又は13日目に単回経口投与
統計学的処理	不明
結果	
死亡数(率)、死亡時間	不明
用量あたり妊娠数	該当せず
流産数	不明
早期/後期吸収数	不明
着床数	該当せず
黄体数	該当せず
妊娠期間(妊娠0日から起算)	不明
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量(総子宮量への影響)	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	不明
同腹仔数及び体重	不明
生存数(生存胎仔数及び胎仔数)	不明
性比	不明
生存率(生後4日目生存仔数/総分娩仔数)	不明
生後発育	不明
分娩後生存率	不明

肉眼的異常(外表観察、内臓標本、骨格標本)	不明
実際に投与された量	該当せず
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	詳細は不明であるが、母動物への毒性なし、児動物への催奇形性を含むその他の毒性なしと報告されている
結論	
PIに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	480mg/kgの単回投与で影響なし
F1に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	母動物への480mg/kgの単回投与で影響なし
F2に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	該当せず
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1976
試験系(種／系統)	不明
性別	不明
投与量	2000ppm
各用量群(性別)の動物数	不明
投与経路	飲水投与
試験期間	不明
交配前暴露期間	不明
試験条件	不明
統計学的処理	不明
結果	
死亡数(率)、死亡時間	不明
用量あたり妊娠数	不明
流産数	不明
早期/後期吸収数	不明
着床数	不明
黄体数	不明
妊娠期間(妊娠0日から起算)	不明
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	不明
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量(総子宮量への影響)	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	胎児と新生児の甲状腺に過形成。
同腹仔数及び体重	不明
生存数(生存胎仔数及び胎仔数)	不明
性比	不明
生存率(生後4日目生存仔数/総分娩仔数)	不明
生後発育	不明
分娩後生存率	不明
肉眼的異常(外表観察、内臓標本、骨格標本)	不明
実際に投与された量	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
PIに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
F1に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
F2に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	該当せず
注釈	該当せず
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書

引用文献(元文献)	
備考	
試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	催奇形性試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1981
試験系(種／系統)	Mouse
性別	不明
投与量	1000mg/kg
各用量群(性別)の動物数	不明
投与経路	強制経口投与
試験期間	不明
交配前暴露期間	なし
試験条件	妊娠10日目に単回経口投与、18日目に帝王切開
統計学的処理	不明
結果	
死亡数(率)、死亡時間	不明
用量あたり妊娠数	該当せず
流産数	不明
早期/後期吸収数	不明
着床数	該当せず
黄体数	該当せず
妊娠期間(妊娠0日から起算)	該当せず
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	該当せず
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	該当せず
剖検所見(発生率、重篤度)	生存胎児に奇形を伴わぬ胎児吸収率の増加
臓器重量(総子宮量への影響)	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	不明
同腹仔数及び体重	不明
生存数(生存胎仔数及び胎仔数)	不明
性比	不明
生存率(生後4日目生存仔数/総分娩仔数)	該当せず
生後発育	該当せず
分娩後生存率	該当せず
肉眼的異常(外表観察、内臓標本、骨格標本)	不明
実際に投与された量	該当せず
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	母動物に対する毒性発現量であると記載されている
結論	
PIに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
F1に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
F2に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	該当せず
注釈	該当せず
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	催奇形性試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1981
試験系(種／系統)	Rat
性別	不明
投与量	1000mg/kg
各用量群(性別)の動物数	不明

投与経路	強制経口投与
試験期間	不明
交配前暴露期間	なし
試験条件	妊娠12または14日目に単回経口投与、20日目に帝王切開
統計学的処理	不明
結果	
死亡数(率)、死亡時間	不明
用量あたり妊娠数	該当せず
流産数	不明
早期/後期吸収数	不明
着床数	該当せず
黄体数	該当せず
妊娠期間(妊娠0日から起算)	該当せず
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	該当せず
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	該当せず
剖検所見(発生率、重篤度)	生存胎児に奇形を伴わぬ胎児吸収率の増加
臓器重量(総子宮量への影響)	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	不明
同腹仔数及び体重	不明
生存数(生存胎仔数及び胎仔数)	不明
性比	不明
生存率(生後4日目生存仔数/総分娩仔数)	該当せず
生後発育	該当せず
分娩後生存率	該当せず
肉眼的異常(外表観察、内臓標本、骨格標本)	不明
実際に投与された量	該当せず
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	母動物に対する毒性発現量であると記載されている
結論	
PIに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
F1に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
F2に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	該当せず
注釈	該当せず
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	催奇形性試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1980
試験系(種／系統)	Rat CFY(群構成不明)
性別	F
投与量	2000ppm
各用量群(性別)の動物数	不明
投与経路	飲水投与
試験期間	不明
交配前暴露期間	なし
試験条件	妊娠1～14日目に投与、20日目に帝王切開
統計学的処理	不明
結果	
死亡数(率)、死亡時間	不明
用量あたり妊娠数	該当せず
流産数	不明
早期/後期吸収数	不明
着床数	該当せず
黄体数	該当せず
妊娠期間(妊娠0日から起算)	該当せず
体重、体重増加量	不明
摂餌量、飲水量	不明

臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	該当せず
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	該当せず
剖検所見(発生率、重篤度)	胎児に成育遅延、中枢及び末梢神経系への影響
臓器重量(総子宮量への影響)	不明
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	不明
同腹仔数及び体重	不明
生存数(生存胎仔数及び胎仔数)	不明
性比	不明
生存率(生後4日目生存仔数/総分娩仔数)	該当せず
生後発育	該当せず
分娩後生存率	該当せず
肉眼的異常(外表観察、内臓標本、骨格標本)	骨格への影響及び眼への影響
実際に投与された量	不明
用量反応性	該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
Pに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
F1に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
F2に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	該当せず
注釈	該当せず
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	不明
方法	
方法／ガイドライン	催奇形性試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1987
試験系(種／系統)	Rat 不明
性別	F
投与量	約350、900mg/kg/日 100、250mg/kg bw/日
各用量群(性別)の動物数	不明
投与経路	強制経口投与
試験期間	不明
交配前暴露期間	なし
試験条件	妊娠18日目から分娩10日まで投与。 生後14日目まで児の体重及び生後10日目の聴覚性驚愕反射、生後14日目の血清サイロキシン(T4)、サイトロロビン(TSH)濃度測定。
統計学的処理	不明
結果	
死亡数(率)、死亡時間	不明
用量あたり妊娠数	該当せず
流産数	不明
早期/後期吸収数	該当せず
着床数	該当せず
黄体数	該当せず
妊娠期間(妊娠0日から起算)	不明
体重、体重増加量	350 mg/kg/日群児: 体重増加の抑制 900 mg/kg/日群児: 重度の体重増加抑制.
摂餌量、飲水量	不明
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	不明
血液学的所見(発生率、重篤度)	不明
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	350 mg/kg/日群児: 血清中T4及びTSH濃度対照群と同等(甲状腺機能正常) 900 mg/kg/日群児: 甲状腺機能の重篤な低下
剖検所見(発生率、重篤度)	不明
臓器重量(総子宮量への影響)	該当せず
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	不明
同腹仔数及び体重	不明
生存数(生存胎仔数及び胎仔数)	不明
性比	不明

生存率(生後4日目生存仔数/総分娩仔数)	不明
生後発育	350 mg/kg/日群児: 聴覚性驚愕反射の発達への影響なし 900 mg/kg/日群児: 聴覚性驚愕反射の発達遅延
分娩後生存率	不明
肉眼的異常(外表観察、内臓標本、骨格標本)	不明
実際に投与された量	該当せず
用量反応性	350 mg/kg/日群児: 聴覚性驚愕反射の発達への影響なし 900 mg/kg/日群児: 聴覚性驚愕反射の発達遅延該当せず
統計的結果	不明
注釈	該当せず
結論	
PIに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	不明
F1Iに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	<350 mg/kg/日
F2Iに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	該当せず
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

5-10その他関連情報

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1974
試験条件	雄のSDラットに ¹⁴ C-チオ尿素を腹腔内投与
結果	
結果	¹⁴ C-チオ尿素は肝臓、腎臓及び肺のタンパク質に結合した。
結論	
結論	チオ尿素は腹腔内投与で肝臓、腎臓及び肺のタンパク質に結合。
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1976
試験条件	雄のSDラットに ¹⁴ C-チオ尿素を腹腔内投与
結果	
結果	¹⁴ C-チオ尿素は肺では24時間後に肺胞壁に均一に分布した。
結論	
結論	不明
注釈	該当せず
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1959
試験条件	³⁵ S-チオ尿素を用いた実験
結果	
結果	還元型ニコチンアミドアデニンジヌクレオチドリン酸 (NADPH) 又はアスコルビン酸の存在下で甲状腺のミクロソームタンパク質はチオ尿素からイオウ原子をはずす作用を行うことが確認された。甲状腺ではタンパク質結合イオウのみでなく硫酸塩やチオ硫酸塩が生成する。なお、肝臓や腎臓のミクロソーム分画では甲状腺でみられた反応は起こらない。

結論	
結論	不明
注釈	該当せず
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1961
試験条件	³⁵ S-チオ尿素を用いた実験
結果	
結果	甲状腺ではチオ尿素からはずれたイオウはin vitroでタンパク質と結合することが確認されたが、肝臓や腎臓ではこの過程はみられなかった。
結論	
結論	不明
注釈	該当せず
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1961
試験条件	ラットに ¹⁴ C-チオ尿素を投与
結果	
結果	親化合物及び代謝物は肝臓や腎臓のタンパク質と選択的に結合した
結論	
結論	不明
注釈	該当せず
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、実験結果の詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1974
試験条件	ラットに ¹⁴ C-チオ尿素を腹腔内投与
結果	
結果	放射能は肺に多くみられ、腎臓や肝臓では少ない。肺の大部分の放射能は100,000 Gの遠心分離上清のタンパク質との結合が認められた
結論	
結論	この結合はチオ尿素の肺に対する毒性作用と関連があり、若齢動物は加齢動物より感受性は低く、チオ尿素とタンパク質の結合は加齢動物に比べ若齢動物では少ない。
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	過去にチオ尿素を投与された動物はタンパク質結合体の生成量は減少する傾向がみられ、投与履歴のない動物に比べ、2回目投与動物ではチオ尿素による肺毒性は低くなる。このチオ尿素結合タンパク質はマイクロオートラジオグラフィーにより肺胞膜に局在することが判明した。フェノバルビタールを投与した動物の肝臓ではチオ尿素-タンパク質結合体量の増加がないことから、肝臓のシトクロムP450Iにはこの結合体の生成作用はないと考えられている。

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明

注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	いいえ
試験を行った年	1976
試験条件	ラットにジエチルマレイン酸を投与し、その後にチオ尿素を投与
結果	
結果	ジエチルマレイン酸の投与はラットの肺のグルタチオン(GSH)を対照の10%に低下させることが判明している。ラットにジエチルマレイン酸を投与し、その後にチオ尿素を投与すると、チオ尿素-タンパク質結合体が対照(チオ尿素の単独投与)の3倍になった。チオ尿素と同量のGSH又はシステインをin vitroで投与すると結合体量は減少し、in vivoではチオ尿素投与に起因する肺浮腫の程度は軽減した。
結論	
結論	肺ではグルタチオン(GSH)の濃度がタンパク質結合体の生成とそれによる毒性発現に重要な役割を果たしている。
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不明
GLP適合	不明
試験を行った年	1979
試験条件	不明
結果	
結果	チオ尿素投与1時間後には肺のGSHは減少し、もとの濃度の10%以下になり、24時間後も投与前の濃度には回復しなかった。
結論	
結論	チオ尿素投与によるGSHの減少率は化学量論的ではなく、投与量以上に高率の減少が起こる。これはGSHを減少させるチオ尿素付加物が形成されることを示唆している。
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	プロフェージ誘発試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1983
試験条件	検定菌: <i>Escherichia coli</i> (λ) 用量: 2000μ g/mL S9添加のみ
結果	
結果	陰性
結論	
結論	陰性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	DNA1本鎖切断試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1991
試験条件	細胞株: ラット肝細胞 用量: 2280 μ g/L S9無添加のみ
結果	
結果	陽性
結論	
結論	陽性

注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	DNA1本鎖切断試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1991
試験条件	細胞株:ラット肝細胞 用量:1250 μ g/L S9無添加のみ
結果	
結果	陰性
結論	
結論	陰性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	不定期DNA合成試験
GLP適合	不明
試験を行った年	1991
試験条件	細胞株:ラット肝細胞 用量:10000 μ g/L S9無添加のみ
結果	
結果	陰性
結論	
結論	陰性
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
方法	
方法／ガイドライン	小核cytikiniesis-block法
GLP適合	不明
試験を行った年	2001
試験条件	細胞株:ヒトリンパ球、Hep-G2(ヒト肝がん細胞) 用量:データなし
結果	
結果	陰性(S9無添加、S9添加)
結論	
結論	陰性(S9無添加、S9添加)
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	用量データなし

5-11 ヒト暴露の経験

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
製造／加工／使用情報	機械の保守管理作業と包装作業中におけるチオ尿素の暴露
研究デザイン	事例研究
仮説検証	該当せず
データ収集方法	不明

被験者の説明	ロシアでの作業中暴露
暴露期間	不明
測定又は評価暴露データ	濃度の記載はないが、典型的な甲状腺機能低下症である顔面浮腫、低血圧、徐脈、基礎代謝量の低下を伴う心電図の変化、便秘、腹部膨満、多尿及びリンパ球・単球の増多を伴う顆粒球減少症がみられた。最初の発症は暴露5～6か月後に赤血球数に変化がみられ、5～15年間取り扱った人にはこれらの大部分の症状がみられた。
結論	
結論	不明
注釈	該当せず
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、評価暴露データの詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
製造／加工／使用情報	チオ尿素を主成分とする甲状腺抑制剤投与による治療
研究デザイン	副作用情報
仮説検証	該当せず
データ収集方法	不明
被験者の説明	チオ尿素剤投与の患者
暴露期間	不明
測定又は評価暴露データ	525名の患者のうち49名(9.3%)が以下の症状(1人で複数の症状を示す患者もある)を示した。 無顆粒球症1名、白血球減少症4名、体温上昇24名、紅斑9名、蕁麻疹1名、リンパ節腫大1名、筋肉及び関節痛4名、消化管の不調17名、その他の症状90名がみられた。 体温の上昇はチオ尿素剤投与開始直後に発現し、中止後直ちに消失するが、投与開始7～14日に始まる皮膚反応としての発熱は感作性によるものである。
結論	
結論	チオ尿素剤投与による副作用発現率:9.3%
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
製造／加工／使用情報	チオ尿素生産工場の作業者
研究デザイン	不明
仮説検証	不明
データ収集方法	不明
被験者の説明	チオ尿素生産工場の作業者
暴露期間	不明
測定又は評価暴露データ	免疫グロブリン量を測定したところ(暴露量測定はない)、免疫グロブリンA は1.2 mg/dL(対照:1.03mg/dL)、免疫グロブリンM は1.4 mg/dL(対照0.91mg/dL)であった。また、チオ尿素中毒と考えられるT4レベルの変動を伴わないT3レベルの減少(60ng/100mL未満)と白血球数の減少の報告がみられた。
結論	
結論	不明
注釈	該当せず
信頼性	4 信頼性評価不能
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータであるが、評価暴露データの詳細が不明
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
製造／加工／使用情報	不明
研究デザイン	不明
仮説検証	不明
データ収集方法	不明
被験者の説明	不明
暴露期間	不明
測定又は評価暴露データ	不明
結論	
結論	ヒトに対して貧血、白血球の減少、血小板減少を伴う骨髓(造血作用)の抑制を引き起こす可能性がある
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
製造／加工／使用情報	不明
研究デザイン	不明
仮説検証	不明
データ収集方法	不明
被験者の説明	不明
暴露期間	不明
測定又は評価曝露データ	不明
結論	
結論	in vitroでヒトの赤血球の形態学的変化を生じ、さらにエネルギー代謝への影響としてのATPレベルの迅速、大幅な減少を惹き起こす
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
製造／加工／使用情報	チオ尿素を用いた銀製品磨き作業
研究デザイン	事例研究
仮説検証	該当せず
データ収集方法	不明
被験者の説明	レストランに従事した女性(24歳)
暴露期間	不明
測定又は評価曝露データ	皮膚疾患を誘発。患者には指頭や爪の下に痒みを伴う水疱が反復して発生した。最終的に湿疹が腕、肩、特に顔面、額、鼻、口にひろがった。太陽光がその条件をさらに悪化させ、検査の結果その患者は銀磨き剤に含まれるチオ尿素に対する接触感作性及び光接触感作性が発現したものと判明した。
結論	
結論	タンパク質等への結合により吸収スペクトルに変化が生じその際に光接触感作性を示す物質があることが知られており、チオ尿素の光接触感作性はこのメカニズムにより生じた可能性がある。
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
製造／加工／使用情報	チオ尿素の使用又は製造工程
研究デザイン	事例研究
仮説検証	該当せず
データ収集方法	不明
被験者の説明	不明
暴露期間	不明
測定又は評価曝露データ	チオ尿素の使用又は製造工程で接触皮膚炎発症の報告があるが、これらはしばしばUV暴露後の銀の研磨や青色印刷用紙の取り扱い時のチオ尿素への接触により生じている
結論	
結論	チオ尿素で接触皮膚炎発症
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
製造／加工／使用情報	頻繁にフोटocopier機を使用
研究デザイン	事例研究
仮説検証	該当せず
データ収集方法	不明
被験者の説明	不明
暴露期間	不明
測定又は評価曝露データ	手や掌に接触皮膚炎が発生
結論	
結論	接触皮膚炎発症
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり

信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
製造／加工／使用情報	チオ尿素を含むゴム製品、靴の底敷き、粘着テープ、ウェットスーツ、ネオプレン製自動車部品(ウェザーストリップス)の使用
研究デザイン	事例研究
仮説検証	該当せず
データ収集方法	不明
被験者の説明	不明
暴露期間	不明
測定又は評価曝露データ	接触皮膚炎が発生
結論	
結論	接触皮膚炎発症
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

試験物質名	thiourea
CAS番号	62-56-6
純度等	不明
注釈	該当せず
製造／加工／使用情報	不明
研究デザイン	不明
仮説検証	不明
データ収集方法	不明
被験者の説明	不明
暴露期間	不明
測定又は評価曝露データ	不明
結論	
結論	光感作性がある化合物とされている
注釈	該当せず
信頼性	2 制限付きで信頼性あり
信頼性の判断根拠	信頼性の高いと認められる文書(化学物質の初期リスク評価書)からのデータ
出典	化学物質の初期リスク評価書
引用文献(元文献)	
備考	

6 参考文献(以下に欄を追加の上、一文献について一行にて一覧を記載)

文献番号(半角数字: 自動的に半角になります)	詳 細(OECD方式での記入をお願いします。下の記入例参照。)	日本語の場合、以下の欄をお願いします。
1		濃縮度試験成績報告書(経済産業省化学物質安全室提供レポート)
2		最終報告書 チオ尿素のヒメダカ(<i>Oryzias latipes</i>)に対する急性毒性試験(2002、国による既存化学物質点検報告書)
3		最終報告書 チオ尿素のオオミジンコ(<i>Daphnia magna</i>)に対する急性遊泳阻害試験(2002、国による既存化学物質点検報告書)
4		最終報告書 チオ尿素の藻類(<i>Selenastrum capricornutum</i>)に対する生長阻害試験(2002、国による既存化学物質点検報告書)
5		最終報告書 チオ尿素のオオミジンコ(<i>Daphnia magna</i>)に対する繁殖阻害試験(2002、国による既存化学物質点検報告書)
6	Nasseri, AA and Prasad MC, "Effects of Hypothyroidism on Reproductive Behaviour in Female Sheep – Clinical Studies", Indian vet. Med. J. Vol.11, December, 1987: 191–199	
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		